

厚真町

# 鯉沼3遺跡(2)

—農地造成に伴う発掘調査報告書—

厚真町教育委員会

平成18年3月

## 例 言

- 1 本書は有限会社新興産業が行う農地造成に伴い、厚真町教育委員会が平成17年度に実施した厚真町鯉沼3遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集は厚真町教育委員会の乾 哲也が担当した。
- 3 本書の執筆はI-2・3を北海道教育委員会の藤原秀樹が、その他は乾が担当し、図版作成にあたっては厚真町教育委員会 奈良智法が協力した。
- 4 遺物の整理は厚真町教育委員会が行った。
- 5 出土資料および記録類は厚真町教育委員会が保管する。
- 6 調査に当たっては下記の諸機関および諸氏にご協力・ご指導を頂いた。記して感謝いたします。  
有限会社新興産業 高橋 利光、同 西原 利一、同 今野 二三男、厚真町鯉沼 大浦 一栄、  
財団法人北海道埋蔵文化財センター、同 熊谷 仁志 苫小牧市博物館 赤石 慎三

## 凡 例

遺構 住居跡：H 土壌：P 焼土：F 落とし穴：TP 住居内焼土：HF 住居内ピット：HP  
地層 いわゆるソフトローム：S.L いわゆるハードローム：H.L  
土層堆積 A+B：AとBが同量比混じる。 A-B：Aを主体にBが多量に混じる。 A=B：Aを主体にBが少量混じる。 A≒B：Aを主体にBが微量に混じる。

## 目 次

I. 調査の概要	
1 調査要項・調査体制	1
2 調査に至る経緯	1
3 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
4 調査範囲と調査の方法	2
5 調査区内の地形と遺構分布	4
6 層 序	4
II. 遺構と遺物	
1 住居跡	4
2 土 壌	10
3 Tピット	10
4 焼 土	22
5 包含層出土および表面採集の遺物	
(1) 土器・土器片加工品	22
(2) 石器	29
III. まとめ	29
参考文献	35
写真図版	36
報告書抄録	50

## I 調査の概要

### 1 調査要項・調査体制

事業名：農地造成

事業者：有限会社 新興産業

工事期間：平成15年12月20日～平成18年12月31日

遺跡名：鯉沼3遺跡（北海道教育委員会登録番号J-13-85）

所在地：勇払郡厚真町鯉沼108番地1

調査面積：2,830㎡

調査期間：平成17年5月13日～5月26日

調査体制：厚真町教育委員会 教育長 幅田敏夫

同 社会教育課長 長橋政徳

同 学芸員 乾 哲也

調査指導：北海道教育庁生涯学習部文化課 藤原秀樹

調査協力：有限会社 新興産業 厚真町教育委員会 小野哲也 同 奈良智法

### 2 調査に至る経緯

有限会社新興産業が行う厚真町鯉沼108番地における火山灰採取・農地造成計画について平成15年12月1日付けで北海道教育委員会に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。これを受けて、北海道教育委員会により平成16年4月14・15日および6月10・11日に試掘調査が実施された。その結果、新たに埋蔵文化財包蔵地が確認され、鯉沼3遺跡として登録を行った。調査の結果については平成16年4月27日付け教文第4054号および6月15日付け教文第4204号で、遺構・遺物ともに多く検出された区域は現状保存、Tピットおよび若干の遺物が検出された区域は工事立会を要する旨、回答がなされた。

現状保存区域については工事計画から除外し、今回工事立会が必要な区域については平成17年4月18日付けで文化財保護法第93条の届出が道教委あてに提出され、平成17年4月27日付け教文第279号で工事立会が必要な旨が通知された。

しかし、平成17年5月9日から火山灰除去をしていた際に、黒色土の落ち込みが多数確認され、当初予想に反してTピットが20数基ほど検出されることが推測された。このため5月11日に現地において道教委・町教委・新興産業の三者で協議を行い、工事立会から厚真町教育委員会主体の発掘調査へ切り替えること、調査期間を延長すること、発掘調査に際し有限会社新興産業が重機・作業員を提供すること、報告書刊行費用についても有限会社新興産業で負担すること、などで合意した。これに伴い、道教委から平成17年5月24日付け教文第538号で発掘調査に切り替える旨が通知された。

発掘調査は、平成17年5月13～26日の10日間の日程で厚真町教育委員会が実施した。調査は黒色土を重機により除去し、その後、遺構を調査する方針で行ったが、黒色土を除去する際に遺物が確認された地点では、人力による調査に切り替えた。

調査の結果、住居跡2軒、土壇5基、Tピット23基、焼土47ヶ所が検出された。また、一部残存していた包含層および遺構内から土器370点、剥片石器21点、礫石器28点、剥片類117点、礫213点の合計749点が出土した（表1-2）。

### 3 遺跡の位置と周辺の遺跡

鯉沼3遺跡は厚真町市街地から南へ10kmほど離れた舌状台地上に位置している(図1)。標高は14~18mである。浜厚真、厚和、鯉沼にかけては、厚真川・野安部川・入鹿部川に挟まれた標高7~9mほどの農地・沼地に囲まれて、標高20~23mの台地が広がり、台地縁辺部は複雑に入り組んでいる。

この台地は支笏降下火山灰(Spfa-1)から成る火山灰台地である(道埋文 2002)。周辺の低地もしくは沼地に延びる舌状台地上には、鯉沼4遺跡、厚和5・8・9遺跡、鹿沼3・5遺跡、浜厚真4遺跡などの存在が確認されている。これらは火山灰採取・土砂採取などの開発行為によって確認されたものである。この周辺は樽前山の火山灰が厚く堆積しており、現在でも大規模な攪乱を受けていないことから、多くの埋蔵文化財包蔵地が未確認のまま残存していることが推測される。

鯉沼3遺跡周辺の低地は、現在では農地となっているが、1921年に作成された大日本帝国陸地測量部発行の「鶴川」を見ると、当時は沼地・湿地であった事が分かる。また、平成16年6月に実施した台地下の試掘調査でも泥炭が厚く堆積していることが確認されている。現在では大沼・長沼その他数ヶ所の湖沼が存在しているだけであるが、縄文海進時には汀線が遺跡近くまで迫り、また遺跡が形成された縄文時代中期頃には広大な沼地・湿地に囲まれていたことが推測できる。

なお、この鯉沼3遺跡では平成16年度に工事立会が実施され、溝状のTピット7基、焼土1ヶ所、フレイク・チップ集中1ヶ所が確認され、柏木川式・余市式を主体とする土器151点、石鏃、石斧、たつき石、すり石、砥石、フレイク・チップなどの石器4,493点が出土している(厚真町教委 2005)。

### 4 調査範囲と調査の方法

今年度の調査区は、道教委からの試掘調査の回答(平成17年4月27日付 教文第279号)で「要工事立会区域」とされた北北西約43m×東南東約66mの2,830㎡の範囲で、南側の「要保存区域」を挟んで平成16年度の工事立会調査区から約75m、北北西よりの位置にある(図2)。

調査にあたってのグリッド設定は行わず、公共座標および絶対高が記録されている地籍境界状より求めた測量仮杭12点を調査区内に設定し、トータルステーションを用いて遺構遺物の記録を行った。本書でのグリッドは、整理報告にあたって、図上でグリッド設定を行ったものである。グリッドは公共座標(旧日本測地系)に従い、平成16年度調査区も含め、今後、同遺跡の調査区が広がることを想定したもので再設定した。基点は南東コーナー(旧座標: X座標=-151730.0 Y座標=-29640.0)で、X軸をアルファベット、Y軸をアラビア数字とし、10m×10m四方のグリッドである。なお、平成16年度調査区のグリッド設定も公共に基づいており、事後の照合が可能であるが、基点が異なるためグリッド名称は一致していない。

調査方法は、調査区の一部がカラマツの植林地であったことから、伐採・抜根の後、表土・樽前b火山灰をバックホーにより除去した。遺物包含層の可能性のあるⅢ層以下は、調査員立会のもとバックホーによる除去を行い遺構確認面であるⅦ層上面までの掘削を行った。この時、焼土や遺物が多数出土したことから、一部はⅦ層上位までとし、ジョレン等による人力調査に切り替えた。

遺構は、TピットはⅥ層ないしはⅦ層面で、ジョレン清掃を行い、平面形を確認したうえで長軸中間付近に直交するトレンチを設定し、堆積状態の実測、写真撮影を行い、完掘後の平面形およびエレベーションはトータルステーションを用いて記録した。焼土は、平面形をトータルステーションで記録し、長軸方向に土層観察面を設け、実測、一部の撮影を行った。

出土遺物の取り上げは、調査区におけるグリッド設定を行っていないことから、トータルステーションを用いて取り上げ、整理作業においてパソコン上でのグリッド確認を行った。

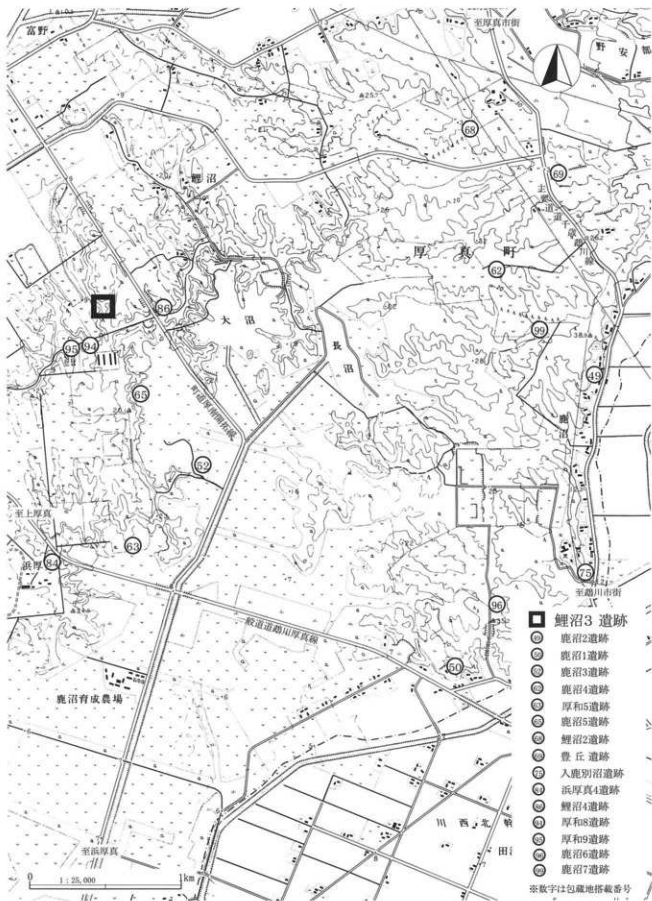


図1 鯉沼3遺跡の位置と周辺の遺跡

(この地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「軽簿」を複製・加筆したものである。)

発掘区内の等高線図は、調査終了後のⅦ層上面から上位にかけての面において・50cmコンターで測量したものである(図3)。

## 5 調査区内の地形と遺構分布(図3)

調査区内には4カ所の沢状地形があり、これらによって尾根状地形が形成されている。これらの沢状地形のうち、南西方向に開折する1カ所(沢地形1)と北面に開折する2カ所(沢地形2・3)のそれぞれの沢から5~7基のTピットが検出されている。沢地形の延長上となる発掘区の中央部付近は、やや広い平坦面があり、今回の調査区内において最も標高が高い。ここからは住居跡2軒が検出されている。北西に延びる尾根上には焼土群、東北東への尾根には土壌群が検出されている。標高は沢状地形の低部で約13.0m、平坦面で約17.5mあり、約4.5mの高低差がある。

## 6 層序

平成16年度の調査(厚真町教委 2005)と同様な堆積状況が確認された。

- I層: 表土で厚さは10cm程である。
- II層: 2層の近世初頭の火山噴出物が堆積している。上層は樽前b礫質降下軽石層(Ta-b・1667年降下)で、厚さは70~80cmである。下層は有珠bシルト質降下火山灰層(Us-b・1663年降下)で、厚さは2cm前後である。
- III層: 第1黒色土層で厚さは5cm程である。この層の上位には、斑状に苦小牧-白頭山火山灰(B-Tm・10世紀前葉降下)が認められる。
- IV層: 樽前c砂質降下火山灰層(Ta-c・B.P.2,500前後)で、厚さは10cm程である。
- V層: 第2黒色土層で厚さは10~30cm程である。沢地形部分では厚く堆積していたが、主に尾根部分では黒褐色から暗褐色で下位のVI層と分層不可能な箇所がみられた。黒色土の発達が進み黒色から黒褐色を呈する上位をVb層、下位または発達の弱い暗褐色土をVc層と細分した。
- VI層: 漸移層で厚さは5~10cmである。この層には少量の樽前降下火山灰(Ta-d)が混じっている。
- VII層: いわゆる風化ローム層で、上層はしまりの弱いソフトローム(S.L)、下層はハードローム(H.L)となっている。尾根上ではソフトローム層が欠落する部分もある。
- VIII層: 風成堆積と推測される支笏降下火山灰(Spfa-1)である(厚真町教委 2001)。

## II 遺構と遺物

検出遺構は、下記の表1の通りで、本年度は住居跡、土壌、Tピット、焼土の計77基を確認した。遺構名の付番については、平成16年度からの継続で行っている。

表1 鯉沼3遺跡 遺構一覧表

	住居跡	土壌	Tピット	焼土	FC集中	合計	備考
平成17年度	2	5	23	47	0	77	本報告
平成16年度	0	0	7	1	1	9	厚真町教委 2005, 1,857 nr
合計	2	5	30	48	1	86	

### 1 住居跡(図4~7、表4~7、写真図版2.3,12-1・2)

2軒の住居を調査した。いずれも、発掘区の中央やや南よりの最も標高が高い範囲に位置する。このうち、H-01は炭化材の出土状態等から焼失住居と考えられる。検出層位はVI層である。層堆積状況

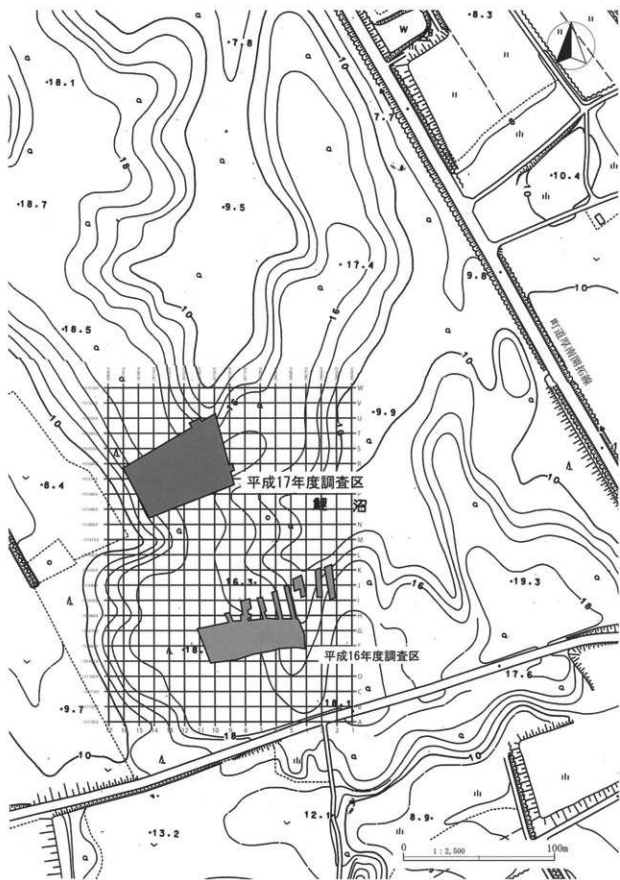


図2 調査範囲と周辺の地形

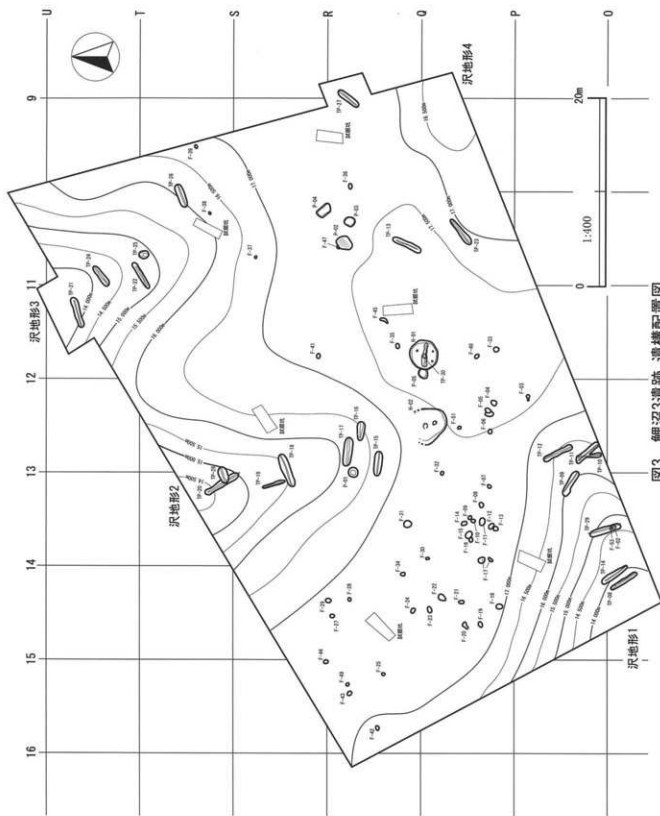
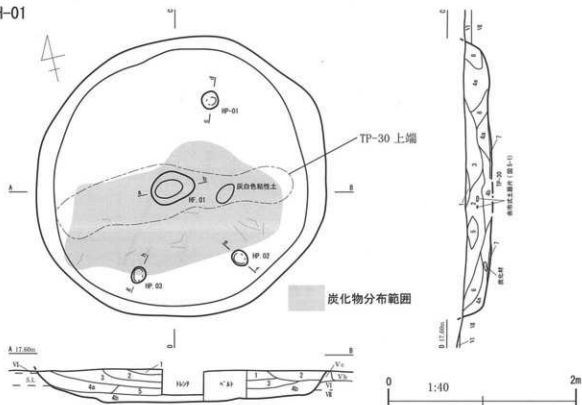


图3 鲤鱼沼3遗址 遗构配置图



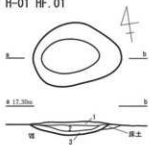
H-01



H-01

- |             |        |                                    |
|-------------|--------|------------------------------------|
| 1. 10VR2/1  | 黒色     | V層=ローム(斑状)                         |
| 2. 10VR2/3  | 黒褐色    | V層=ローム(斑状)=Spfap                   |
| 3. 10VR2/2  | 黒褐色    | V層=ローム(均一)                         |
| 4a. 10VR3/3 | 暗褐色    | ローム=V層(均一)=炭化物                     |
| 4b. 10VR3/3 | 暗褐色    | ローム=炭化物=V層(均一)=焼土ブロック              |
| 5. 10VR4/3  | にぶい赤褐色 | ローム=V層(斑状)                         |
| 6. 10VR4/4  | 褐色     | ローム=炭化物=V層(斑状)しまりあり                |
| 7. 10VR3/4  | 暗褐色    | ローム=V層(斑状)=炭化物しまり強い 生活層 Gr-Mud片多量. |
| 8. 10VR2/3  | 黒褐色    | V層+ローム(均一)しまり弱い 後世の風倒 or 根         |

H-01 HF. 01



HF. 01

- |              |        |                        |
|--------------|--------|------------------------|
| 1. 5VR4/3    | にぶい赤褐色 | 4b層=炭化物=焼土(斑状)サンプリング層  |
| 2. 5VR4/6    | 赤褐色    | 被熱層                    |
| 3. 7. 5VR5/4 | にぶい褐色  | 床土(VII層)=炭化物(斑状) 黒色付帯層 |

HP. 01



HP. 02



HP. 03



HP. 01

- |             |        |                         |
|-------------|--------|-------------------------|
| 1. 10VR 3/4 | 暗褐色    | ローム=V層(斑状)<br>=炭化物しまり弱い |
| 2. 10VR 4/3 | にぶい黄褐色 | ローム=V層(斑状)しまりあり         |

図4 H-01

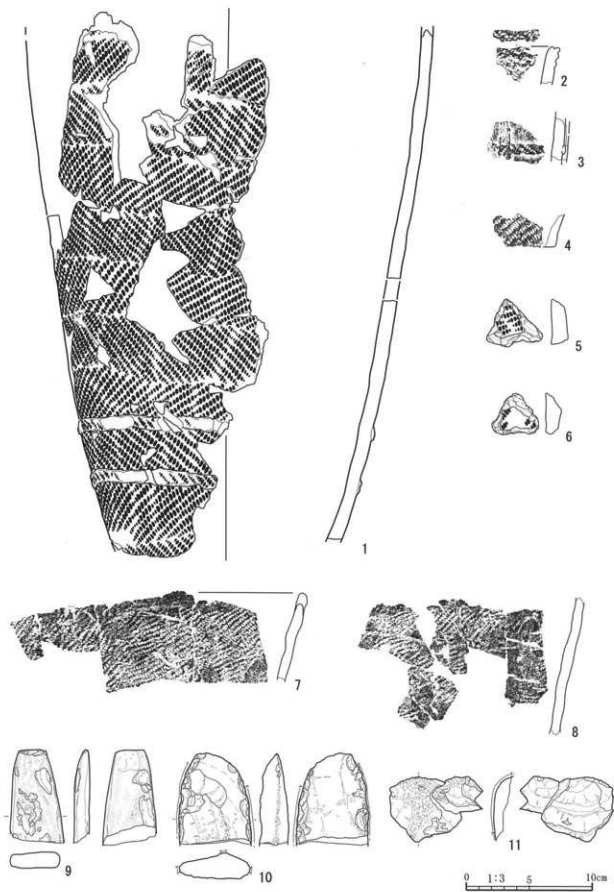


图5 H-01 出土遺物

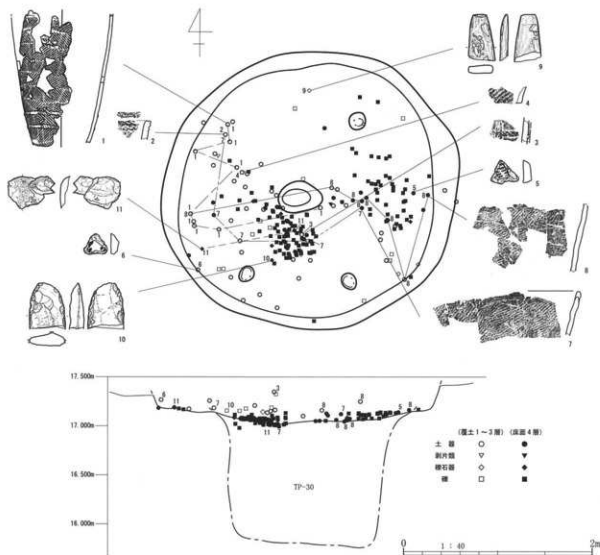


図6 H-01 遺物分布図

や遺物出土状況等を個別に記載し、計測値等は表4を参考とされたい。

**H-01** (図4～6、表4～6、写真図版2,12-1)

〔構造〕 円形プランで、調査面からの掘り込みが約30cmあり、明瞭な壁の立ち上がりが認められる。中央に地床炉(HF01)があり、柱穴はいずれも浅いもので、壁よりに3カ所確認した。本来の構造としては、地床炉を中心とした方形配置の4本支柱穴であったものと思われる。なお、TP-30と重複関係にあり、Tピット部分の床面は、溝状にやや窪んでいた。

〔堆積状態〕 中央部に整穴埋没過程の自然堆積土と思われるV層主体土(1～3層)、壁際から中央部にかけてローム主体土(4～6層)が堆積する。ローム主体土層からは炭化物が少量出土し、下層から床面直上にかけて、炭化材の形状を残すやや大型のものを検出した。これらの堆積層は斑状に堆積しており、標準堆積層より高位に認められることから、屋根土の可能性もある。また、炭化材の出土状態から、焼失住居と考えられる。最下層の7層は、いわゆる生活面層で、しまりが強く、少量の炭化物粒を含む。なお、現地での遺物取り上げにあたって、V層主体土(堆積図1・2層)を「1層」、覆土上層(堆積図3層)を「2層」、覆土下層(堆積図4・5層)を「3層」、床面(堆積図7層)を「4層」とした。

〔遺物出土状態〕 覆土上層のV層主体層より余市式土器(図5-1)が出土している。床面からは、柏木川式土器(7・8)や同型式の土器片加工品(5)の他、HF01の南側で石斧素材(10)と多量の緑色泥岩片(11)が出土している(図6)。このほかHF01の東側で、灰白色の粘性土(28×16×1cm)が見られ、HF01周囲にも薄く広がっていた。焼土形成時の灰層の可能性もあるが、焼骨片の混入は見られなかった。

〔出土遺物〕 図5-2・7・8は柏木川式で、2は口縁部に3条、口唇に1条の縄線文が施されている。1・3・4は余市式で、1は胴部上位から底部付近までよりの異なる原体による羽状多段構成の地文が施され、下位に2段の貼付帯が横環している。3は口縁部片で、無文地に断面カマボコ形の貼付帯が横・縦位に施されている。4は平底の底部片で、底部側面まで縄文が施されている。7・8は同一個体片で、頸部のくびれる深鉢形土器である。地文は条の不揃いなLR斜行縄文が施され、口縁には4単位の低平な山形突起が付く。5・6は柏木川式土器の破片を利用した三角形の加工品で、いずれも打ち欠き整形。

〔所属時期〕 床面出土遺物および堅穴埋設過程の自然堆積土層からの出土遺物より、縄文時代中期後葉の柏木川式期の所産である。

#### H-02 (図7、表4.7、写真図版3、12-2)

〔検出・調査〕 周囲をVI層下位からVII層上面まで除去した段階で、楕円形の黒色土の落ち込みを確認し、トレンチを掘削したところ、ほぼ水平な床面と思われるVII層面と地床炉を検出した。

〔構造〕 沢地形2の沢頭付近緩斜面に立地し、斜面下方の壁立ち上がりは確認できなかった。推定プランは、楕円形ないしは卵形と思われる、長軸上2ヵ所に地床炉(HF01・02)を確認した。柱穴は確認できなかった。また、堅穴の掘り込みも浅く、沢へ開く北側では、床面および壁の確認はできなかった。

〔堆積状態〕 堅穴中央付近は床面にV層が直接堆積していた。5層は屋根土の可能性もある。6層は水平堆積で、しまりが極めて強く、床面と思われる。

〔遺物出土状態〕 出土遺物は覆土より2点、床面3点で、床面からは余市式土器の細片と掲載した2点が出土している。

〔出土遺物〕 図7-1は、黒曜石製のスクレイパーで、左側縁は湾入、右側縁は凸刃で、基部は欠損している。2は片岩製の短冊状の石製品で、左右側縁に両極打法と思われる剥離調整が施されている。研磨調整や刃部加工は一切施されていない。

〔所属時期〕 縄文時代後期初頭の余市式期と思われる。

#### 2 土壌 (図8、表8、写真図版4)

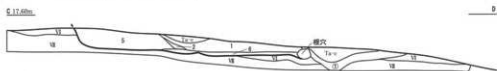
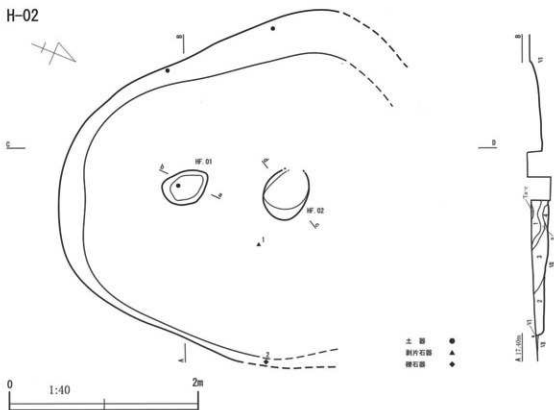
P-01～05までの5基を検出した。このうちP-02～04の3基は発掘区の間や東側にまとまって検出した。平面形は、円形(P-01)、楕円形(P-02・03・05)、長方形(P-04)があり、長軸120cm以下のものと、160cm以上のものに分かれる。堆積土の特徴としてはP-02～05は極めて類似しており、V層とロームが均一に混ざり合ったものにロームブロックを少量、炭化物を微量に含む特徴がある。

特異なものとして、P-02があり、5基の土壌のうち最大規模で、坑底面はほぼ水平で硬く締まっており炭化物集中が見られた。土壌サンプルのフローテーション処理を行ったが、炭化種子は検出されていない。また、V層上位で検出したF-47(余市式期)と重複関係にあり、遺跡内における遺物の時期的な構成よりP-02は、住居跡(H-01)と同時期と思われる。

#### 3 Tピット (図9～16、表9、写真図版5～9)

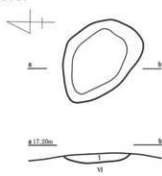
今回の調査ではTピットが23基検出された。計測値等は表9に記載し、以下に概略をまとめる。

H-02



- H-2
- |                 |             |                  |                      |
|-----------------|-------------|------------------|----------------------|
| 1. 10YR1.7/1 黒色 | V層          | 4. 5YR4/4 にぶい赤褐色 | 3層+焼土ブロック (痕状) HF.01 |
| 2. 10YR2/3 黒褐色  | V層=ローム (均一) | 5. 10YR3/3 暗褐色   | V層=ローム (痕状)          |
| 3. 10YR3/4 暗褐色  | ローム-V層 (均一) | 6. 10YR3/4 暗褐色   | V層+ローム (痕状) しまり極めて強い |
- ① 5層=Tac (痕状) H-02より新しく Tacより古い風倒木痕

HF.01

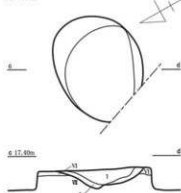


H-02 HF.01

1. 5YR5/6 明赤褐色 VI層 (弱い被熱層)  
ローム部分赤化 (痕状)



HF.02



H-02 HF.02

1. 5YR5/8 明赤褐色 VI~VII層強い被熱  
炭化面なし炭化物なし  
2. 5YR5/4 にぶい赤褐色 VI~VII層弱い被熱 (痕状)

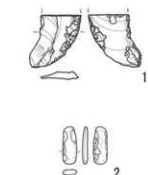
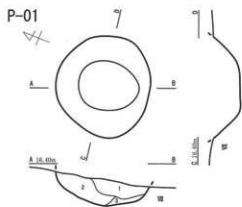
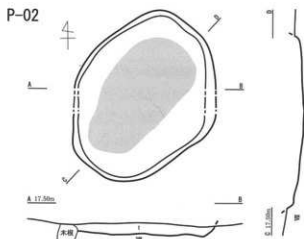


図7 H-02 遺構図・出土遺物



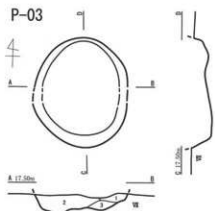
P-01

1. 10YR3/2 黒褐色 V層-ローム (均-) -Spfap
2. 10YR2/2 黒褐色 V層=ローム (斑状) =Spfap
3. 10YR5/6 黄褐色 ローム≒V層 (斑状) しまりあり



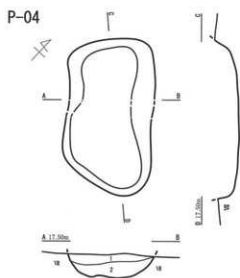
P-02

1. 10YR4/1 褐灰色 V層-Spfal. (均-) =Spfap (φ20↓) ブロック  
トーン範囲は坑底面炭化物範囲



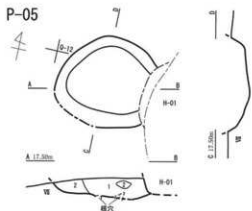
P-03

1. 10YR3/1 黒褐色 V層-Spfal. (斑状)
2. 10YR4/1 褐灰色 V層-Spfal. (均-) =Spfal. (φ20↓) ブロック
3. 10YR5/2 灰黄褐色 V層-Spfal. (均-) -Spfal. (φ20↓) ブロック



P-04

1. 10YR4/4 褐色 V層-ローム (均-) =ロームブロック (φ5↓) (斑状)
2. 10YR2/2 黒褐色 V層=ローム (均-) =ロームブロック (φ20↓) (斑状) =炭化物



P-05

1. 10YR3/3 暗褐色 V層-ローム (均-) =Spfap=炭化物
2. 10YR3/4 暗褐色 V層-ローム (均-) =ロームブロック=炭化物

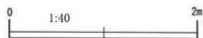


図8 P-01 ~ 05

#### 〔形態〕

開口部は崩落により構築時からの平面形が変化しているが、坑底面は構築時点の形状をとどめているものと思われる。下記のいわゆる苦東分類基準（大泉 1987）のA1型が主体で、坑底面に杭穴が確認されたものは、TP-25の1基のみである。

A型：坑底面の長短比が8以上で、長さ比べて幅が狭い溝状のタイプ。

A1型 長軸が2m以上のもの（TP-08～15・17～24・26・27・29・30）

A2型 長軸が2m未満のもの（TP-28）

B型：坑底面の長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ。

B1型 杭穴がないもの（TP-16）

B2型 杭穴があるもの（本報告検出例なし）

C型：坑底面の長短比が4未満のもので、楕円形から円形に近いもの。（TP-25）

D型：長さ1m、幅0.2m前後の小規模なタイプで、深さ0.5m未満のもの。（本報告検出例なし）

#### 〔立地〕

今回の調査において、沢状地形にTピットが集中して検出された特徴がある（図3）。

沢地形1：7基 TP-08～12・14・29（A1型）

沢地形2：7基 TP-15・17～20（A1型）、TP-16（B1（A1型）、TP-28（A2型）

沢地形3：5基 TP-21・22・24・26（A1型）、TP-25（C型）

沢地形4：1基 TP-23（A1型） 平坦部あるいは尾根状地：3基 TP-13・27・30（A1型）

これらの多くは長軸を等高線に平行させるもので、同時期の配列を伴う可能性があるが、明確なものはない。特異なものとしては、TP-19・20で、等高線に長軸を直交させるものや、類似規模のTP-15～17が沢頭にまとまるものが見られる。

#### 〔堆積状態〕

多くはVI層ないしはVII層面で、V層黒色土の落ち込みで確認された。VI層からVII層のソフトロームにかけての開口部が崩落によりV字状に開き、黒色土が堆積している。覆土中位は、開口部からの崩落ロームがブロック状の塊で堆積しているものが多く、覆土下位はロームの崩落土と支筋降下火山灰が水平に互層となって堆積するものが多い。最下層はV層を主体とする黒褐色土のものとローム主体土のものがある。後者は、構築面のV層の堆積が未発達であったことに起因すると思われる。特異なものとして、TP-28は、両壁が標準堆積のまま、ずり落ちている。これは、切り合うTP-20の影響と壁面のハードロームによるものと思われる。また、H-01と重複関係にあるTP-30は、住居構築時に埋め戻された可能性があり、覆土上層は住居の居住により硬く踏みしめられた状態であった。

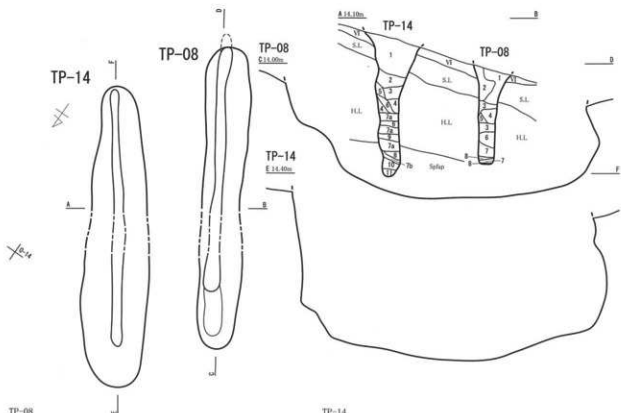
#### 〔切り合い・重複関係〕

切り合い関係はTP-10・11とTP-20・28の2例が確認された。前者は2基ともA1型で、検出面および堆積状況からの新旧関係は不明であった。後者はTP-20がA1型、TP-28がA2型である。検出面の状態では、TP-28の黒色土が回りTP-20を切るものと思われる。

重複関係は、TP-29とF-02・53、TP-30とH-01の2例が確認された。前者の3遺構の関係は、F-02がV層上位で余市式期、F-53は柏木川式期の所産と思われ、TP-29のV層落ち込みで形成されていることから、時期差は短期間のものと思われる。後者のH-01との関係は、住居の跡跡(HF.01)がTP-30の上に形成されていることから、H-01より古く、住居の柏木川式期より古いことがわかる。

#### 〔その他〕

沢地形2に立地するTP-16（B1型）と17（A1型）の検出面で、大型の被熱礫（TP-16：No.413・263mm×206mm×156mm・11,320g、TP-17：No.412・323mm×251mm×142・11,610g）が出土している（写真図版6-2・5・6）。



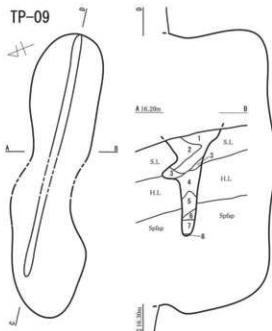
TP-08

- |               |       |                               |
|---------------|-------|-------------------------------|
| 1. 10YR 2/1   | 黒色    | V層 = ローム(斑状)・Spfap            |
| 2. 10YR 3/3   | 暗褐色   | V層 = ローム(斑状) ≡ Spfap          |
| 3. 10YR 4/4   | 褐色    | ローム ≡ V層(斑状)                  |
| 4. 10YR 1.7/1 | 黒色    | V層 = ローム(斑状)                  |
| 5. 10YR 4/3   | にぶ黄褐色 | V層 = ローム(斑状) = Spfap<br>しまりなし |
| 6. 10YR 2/2   | 黒褐色   | V層 = ローム(均-)しまり弱              |
| 7. 10YR 3/2   | 黒褐色   | V層 = ローム(均-)・Spfap<br>しまり弱    |
| 8. 10YR 1.7/1 | 黒色    | V層 しまりなし                      |

TP-14

- |               |       |                                     |
|---------------|-------|-------------------------------------|
| 1. 10YR 2/2   | 黒褐色   | V層 = ローム(斑状)<br>= Spfap・Ta-d1・Ta-d2 |
| 2. 10YR 1.7/1 | 黒色    | V層 = ローム(均-)                        |
| 3. 10YR 4/3   | にぶ黒褐色 | ローム = V層(均-)                        |
| 4. 10YR 4/4   | 褐色    | ローム                                 |
| 5. 10YR 3/3   | 暗褐色   | V層 = ローム(均-)                        |
| 6. 10YR 3/2   | 黒褐色   | V層 = ローム(均-)                        |
| 7a. 10YR 4/3  | にぶ黄褐色 | ローム - Spfap ≡ V層(均-)しまりなし           |
| 7b. 10YR 4/3  | にぶ黄褐色 | ローム - Spfap                         |
| 8. 10YR 3/3   | 暗褐色   | V層 = ローム(斑状)しまりなし                   |
| 9. 10YR 2/1   | 黒色    | V層 = ローム(斑状)しまりなし                   |
| 10. 10YR 3/4  | 暗褐色   | Spfap = ローム(均-)<br>= V層(均-)しまり弱     |

TP-09



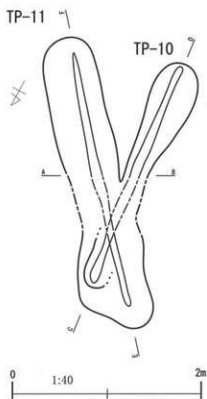
TP-09

- |             |     |                                       |
|-------------|-----|---------------------------------------|
| 1. 10YR 2/2 | 黒褐色 | V層 = ローム(斑状)                          |
| 2. 10YR 2/1 | 黒色  | V層 = ローム(均-)・Spfap                    |
| 3. 10YR 3/4 | 暗褐色 | V層 = ローム(斑状)                          |
| 4. 10YR 3/2 | 黒褐色 | V層 = ローム(均-) = Spfap<br>= Ta-d1・Ta-d2 |
| 5. 10YR 3/3 | 暗褐色 | ローム - V層(均-) = Spfap                  |
| 6. 10YR 2/2 | 黒褐色 | V層 = ローム(斑状) ≡ Spfap                  |
| 7. 10YR 5/6 | 黄褐色 | Spfap しまりなし                           |
| 8. 10YR 3/2 | 黒褐色 | V層 = ローム(均-) - Spfap<br>しまりなし         |



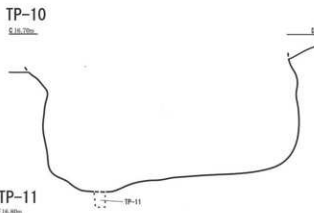
図9 TP-08-09-14



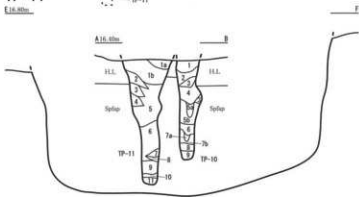


TP-10

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = ローム(均一)
2. 10YR 3/4 暗褐色 ローム - V層(斑状)
3. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = ローム(均一) = Spfap しまり弱
4. 10YR 4/6 褐色 ローム = V層(斑状) しまりあり H.L. 崩落層
- 5a. 10YR 5/8 黄褐色 Spfap 崩落層 = ローム(均一) しまりなし
- 5b. 10YR 5/8 黄褐色 Spfap 崩落層
6. 10YR 2/1 黒色 V層 = Spfap(均一) しまりなし
- 7a. 10YR 4/4 褐色 Spfap 崩落層 = V層(均一) しまりなし
- 7b. 10YR 4/4 褐色 Spfap 崩落層 = V層(均一) しまりなし
8. 10YR 1.7/1 黒色 V層 = Spfap しまりなし
9. 10YR 3/2 黒褐色 V層 - Spfap しまりなし = ローム(均一)



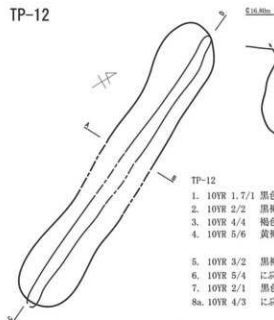
TP-11



TP-11

- 1a. 10YR 2/1 黒色 V層
- 1b. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = ローム(斑状) = Spfap
2. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 ローム = V層(斑状)
3. 10YR 3/4 暗褐色 ローム + V層(均一) = Spfap = Ta-d2
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 ローム = V層(斑状) しまり弱
5. 10YR 3/3 暗褐色 ローム + V層(均一) = Spfap しまり弱
6. 10YR 4/4 褐色 ローム = V層(均一) = Spfap しまりなし
7. 10YR 5/6 黄褐色 Spfap 崩落層 = ロック しまりなし
8. 10YR 3/2 黒褐色 V層 = ローム(均一) = Spfap
9. 10YR 4/6 褐色 Spfap = ローム(均一) = Spfap
10. 10YR 2/1 黒色 V層 = Spfap しまりなし
11. 10YR 3/4 暗褐色 ローム = V層(均一) = Spfap しまり弱

TP-12

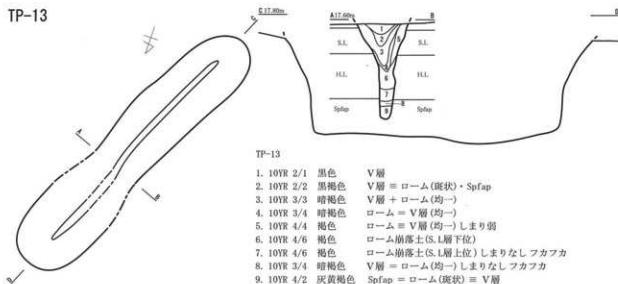


TP-12

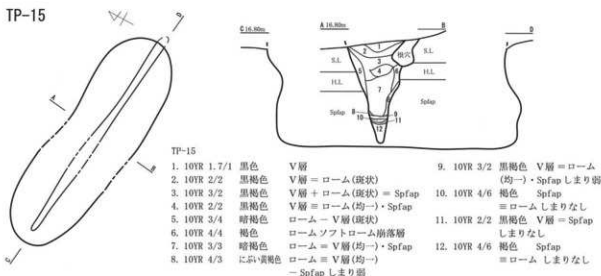
1. 10YR 1.7/1 黒色 V層
2. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = ローム(均一)
3. 10YR 4/4 褐色 ローム = V層(斑状)
4. 10YR 5/6 黄褐色 ローム S.L. 崩落層 しまり弱
5. 10YR 3/2 黒褐色 V層 - ローム(斑状)
6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 ローム = V層(斑状)
7. 10YR 2/1 黒色 V層
- 8a. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 ローム = V層(均一) = Spfap しまり弱
- 8b. 10YR 5/8 黄褐色 Spfap 崩落層 しまりなし
9. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 ローム = V層(均一) しまりあり
10. 10YR 3/3 暗褐色 ローム = V層(斑状) しまり弱
11. 10YR 5/6 黄褐色 Spfap = ローム(均一)
12. 10YR 2/1 黒色 V層
13. 10YR 4/6 褐色 ローム 崩落層 しまりなし

図 10 TP-10 ~ 12

TP-13



TP-15



TP-16

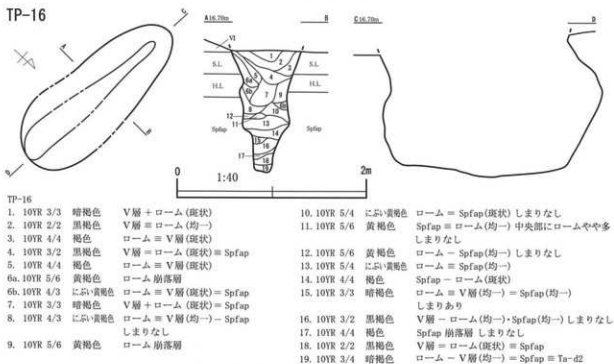
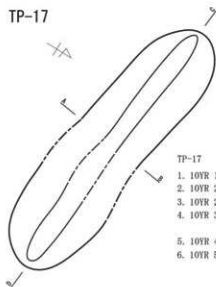


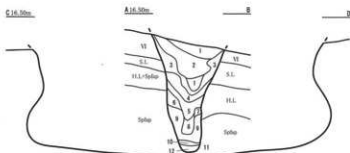
図 11 TP-13・15・16

TP-17



φ16.50m

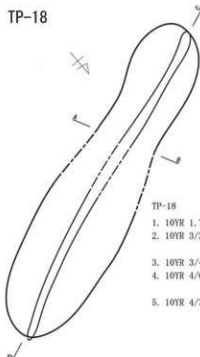
A16.50m



TP-17

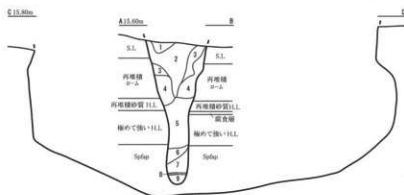
- |                  |                 |                     |                 |       |
|------------------|-----------------|---------------------|-----------------|-------|
| 1. 10YR 1.7/1 黒色 | V層              | 7. 10YR 5/4 におい黄褐色  | ローム崩落層          | しまりなし |
| 2. 10YR 2/1 黒色   | V層 = ローム(均一)    | 8. 10YR 5/6 黄褐色     | Spfap + ローム(斑状) |       |
| 3. 10YR 2/2 黒褐色  | V層 = ローム(斑状)    | 9. 10YR 5/8 黄褐色     | Spfap = ローム(均一) |       |
| 4. 10YR 3/4 暗褐色  | ローム = V層(斑状)    |                     | しまりなし           |       |
| 5. 10YR 4/4 褐色   | VI層下位崩落層        | 10. 10YR 5/4 におい黄褐色 | ローム = V層(斑状)    |       |
| 6. 10YR 5/6 黄褐色  | ローム崩落層          |                     | H.Lブロック状        | しまり強  |
|                  | Spfap + ローム(均一) | 11. 10YR 5/8 黄褐色    | Spfap = ローム(均一) | しまりなし |
|                  | しまりなし           | 12. 10YR 2/1 黒色     | V層 = Spfap      | しまりなし |

TP-18



φ19.80m

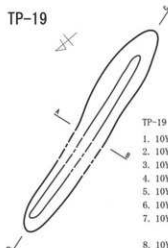
A19.80m



TP-18

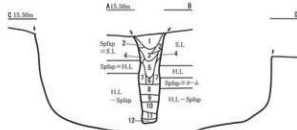
- |                    |                |                  |                 |       |
|--------------------|----------------|------------------|-----------------|-------|
| 1. 10YR 1.7/1 黒色   | V層             | 6. 10YR 3/3 暗褐色  | V層 - ローム(均一)    | しまりなし |
| 2. 10YR 3/2 黒褐色    | V層 - ローム(斑状)   |                  |                 |       |
|                    | ・ Spfap (φ5mm) | 7. 10YR 4/4 褐色   | ローム - Spfap     | しまりなし |
| 3. 10YR 3/4 暗褐色    | ローム = V層(斑状)   | 8. 10YR 1.7/1 黒色 | V層 = Spfap      | しまりなし |
| 4. 10YR 4/6 褐色     | ローム崩落層         | 9. 10YR 4/6 褐色   | Spfa = ローム = V層 |       |
|                    | しまりあり          |                  |                 |       |
| 5. 10YR 4/3 におい黄褐色 | ローム崩落層         |                  | しまりなし           |       |
|                    | しまりなし          |                  |                 |       |

TP-19



φ19.50m

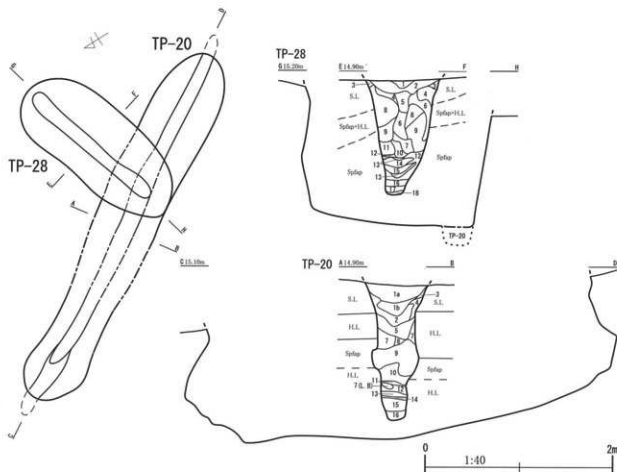
A19.50m



TP-19

- |                    |              |                  |                    |          |
|--------------------|--------------|------------------|--------------------|----------|
| 1. 10YR 1.7/1 黒色   | V層           | 9. 10YR 5/6 黄褐色  | Spfap              |          |
| 2. 10YR 4/3 におい黄褐色 | ローム = V層(斑状) |                  | = ローム(斑状)          | しまり・粘性なし |
| 3. 10YR 2/2 黒褐色    | V層 = ローム(均一) | 10. 10YR 3/4 暗褐色 | ローム = V層(均一)       |          |
| 4. 10YR 2/3 黒褐色    | V層 = ローム(斑状) | 11. 10YR 2/1 黒色  | V層 = Spfap         |          |
| 5. 10YR 5/6 黄褐色    | ローム = V層(斑状) | 12. 10YR 3/3 暗褐色 | ローム = V層(層状)・Spfap |          |
| 6. 10YR 3/4 暗褐色    | ローム - V層(斑状) |                  |                    |          |
| 7. 10YR 5/4 におい黄褐色 | ローム          |                  | しまりなし              |          |
|                    | S.L崩落層       |                  |                    |          |
| 8. 10YR 3/2 黒褐色    | V層 - ローム(斑状) |                  |                    |          |

図 12 TP-17 ~ 19



TP-20

- |                |        |                               |
|----------------|--------|-------------------------------|
| 1a. 10YR 1.7/1 | 黒色     | V層                            |
| 1b. 10YR 2/1   | 黒色     | V層 = ローム(均一)                  |
| 2. 10YR 2/2    | 黒褐色    | V層 = ローム(斑状)                  |
| 3. 10YR 3/4    | 暗褐色    | ローム = V層(均一)                  |
| 4. 10YR 4/4    | 褐色     | ローム = V層(均一)                  |
| 5. 10YR 3/3    | 暗褐色    | ローム + V層(斑状)                  |
| 7. 10YR 4/4    | 褐色     | ローム 崩落層<br>ブロック状しまりあり         |
| 8. 10YR 2/2    | 黒褐色    | V層しまりなし                       |
| 9. 10YR 5/4    | にぶい黄褐色 | ローム = Spfapしまりなし              |
| 10. 10YR 5/8   | 黄褐色    | Spfap = ローム(斑状)<br>しまりなし 粘性なし |
| 11. 10YR 1.7/1 | 黒色     | V層 = Spfapしまりなし               |
| 12. 10YR 3/3   | 暗褐色    | ローム - V層(均一)<br>= L.B(φ1cm L) |
| 13. 10YR 5/6   | 黄褐色    | ローム = Spfap(斑状)               |
| 14. 10YR 1.7/1 | 黒色     | V層 = Spfapしまりなし               |
| 15. 10YR 5/6   | 黄褐色    | ローム = Spfap(斑状)               |
| 16. 10YR 5/4   | にぶい黄褐色 | ローム = Spfap(層状)               |

TP-28

- |               |        |                           |
|---------------|--------|---------------------------|
| 1. 10YR 2/1   | 黒色     | V層 = ローム(均一)・Spfap        |
| 2. 10YR 1.7/1 | 黒色     | V層                        |
| 3. 10YR 3/2   | 黒褐色    | V層 = ローム(斑状)              |
| 4. 10YR 4/3   | にぶい黄褐色 | ローム = V層(斑状) VI層崩落層しまりあり  |
| 5. 10YR 2/2   | 黒褐色    | V層 = ローム(均一)・Spfapしまり弱    |
| 6. 10YR 3/3   | 暗褐色    | ローム + V層(均一) = Spfapしまり弱  |
| 7. 10YR 3/4   | 暗褐色    | ローム = V層(均一) - Spfapしまりなし |
| 8. 10YR 4/4   | 褐色     | ローム 崩落層(S.L)しまり強い         |
| 9. 10YR 4/6   | 褐色     | ローム 崩落層(H.L)しまり強い         |
| 10. 10YR 4/3  | にぶい黄褐色 | ローム = Spfap = V層(均一)しまり弱  |
| 11. 10YR 5/6  | 黄褐色    | Spfap = ローム(均一)しまり弱       |
| 12. 10YR 5/8  | 黄褐色    | Spfap = ローム(均一)しまり弱       |
| 13. 10YR 2/1  | 黒色     | V層 = Spfap(層状)しまりなし       |
| 14. 10YR 3/3  | 暗褐色    | V層 = ローム(均一)・Spfapしまり弱    |
| 15. 10YR 3/2  | 黒褐色    | V層 = ローム(均一) - Spfapしまりなし |
| 16. 10YR 2/1  | 黒色     | V層 = ローム(均一) - Spfapしまりなし |
| 17. 10YR 5/6  | 黄褐色    | Spfap = ローム(均一)しまりなし      |
| 18. 10YR 3/2  | 黒褐色    | V層 = ローム(均一) - Spfapしまりなし |
- ※ 1~3層は、TP 内側壁の崩落により幅広く楕円形プランで堆積している。

図 13 TP-20・28

いずれも流れ込みないしは人為的投棄と思われるローム混入層に伴う遺物である。後述のF-53と検出状態が類似していることから、大型礫は柏木川式期の所産と思われる。

〔時期〕

重複関係より、A1型の多くは柏木川式期より古いと思われる。当遺跡のTビットはA1型が主体であることから、縄文中期後葉以前にTビット群が盛んに構築されたものと思われる。

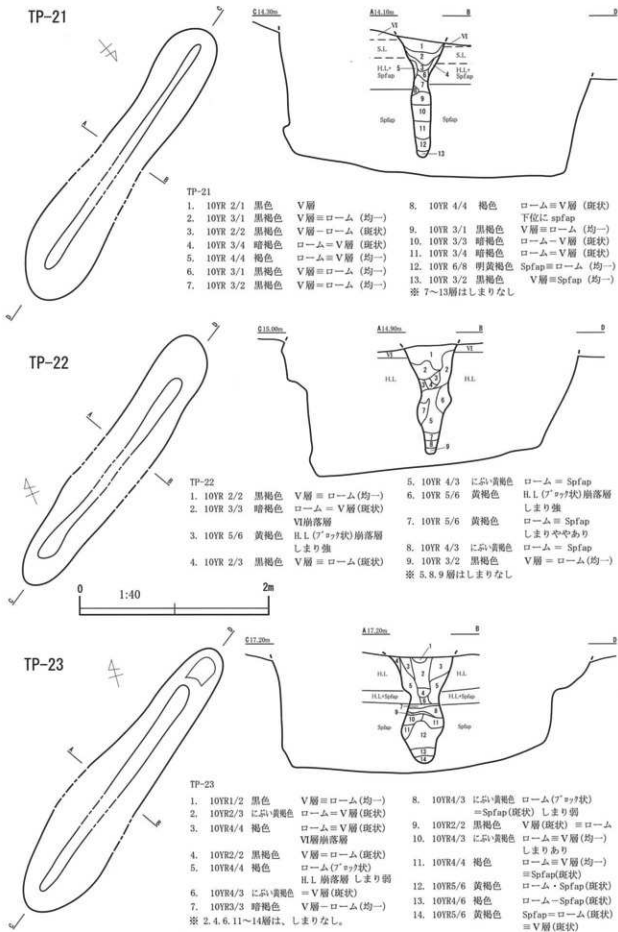
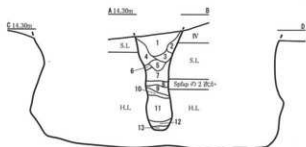
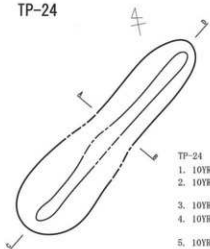


図 14 TP-21 ~ 23

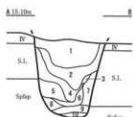
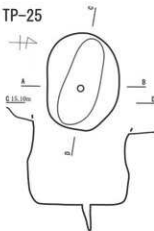
TP-24



TP-24

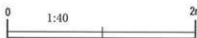
- |                   |                  |       |
|-------------------|------------------|-------|
| 1. 10YR 2/1 黒色    | V層               |       |
| 2. 10YR 2/2 黒褐色   | V層 + ローム         |       |
|                   |                  | しまりなし |
| 3. 10YR 2/1 黒色    | V層 = ローム         |       |
| 4. 10YR 2/2 黒褐色   | V層 = ローム + Spfap |       |
|                   |                  | しまりなし |
| 5. 10YR 2/3 黒褐色   | V層 = ローム         |       |
| 6. 10YR 3/3 暗褐色   | V層 - ローム + Spfap |       |
|                   |                  | しまり強い |
| 7. 10YR 4/3 にい黄褐色 | ローム = V層         |       |
| 8. 10YR 2/3 黒褐色   | V層 = ローム         | しまりなし |
| 9. 10YR 3/4 暗褐色   | ローム崩落            |       |
| 10. 10YR 2/3 黒褐色  | V層 = ローム         |       |
| 11. 10YR 4/4 褐色   | ローム崩落            |       |
|                   | - V層 = Spfap     |       |
| 12. 10YR 3/4 暗褐色  | V層 + ローム         | しまりなし |
| 13. 10YR 2/2 黒褐色  | V層 = ローム         |       |

TP-25

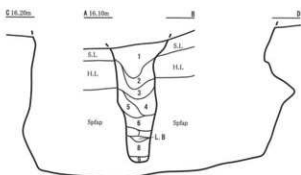
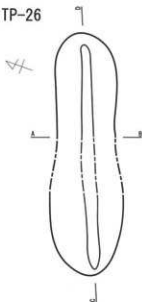


TP-25

- |                |                  |       |
|----------------|------------------|-------|
| 1. 10YR2/1 黒色  | ローム + Spfap      |       |
| 2. 10YR2/2 黒褐色 | Spfap            |       |
| 3. 10YR4/4 褐色  | ロームの崩落           |       |
| 4. 10YR4/6 褐色  | ローム + Spfap      |       |
| 5. 10YR5/8 黄褐色 | Spfapの崩落         |       |
| 6. 10YR2/3 黒褐色 | V層 = ローム         | しまりなし |
| 7. 10YR4/6 褐色  | ローム = V層         |       |
| 8. 10YR5/8 黄褐色 | Spfap = V層       |       |
| 9. 10YR2/2 黒褐色 | V層 = ローム = Spfap |       |
| 10. 10YR2/1 黒色 | V層               |       |



TP-26

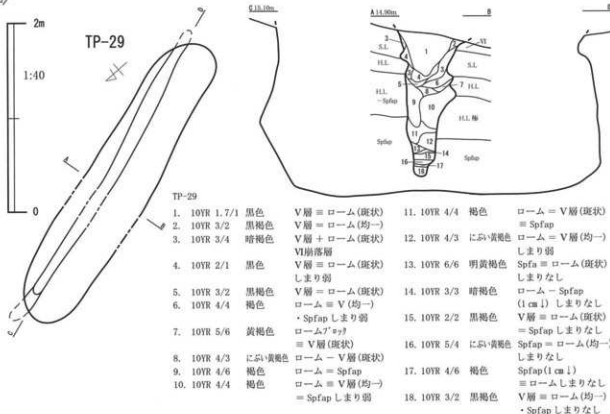
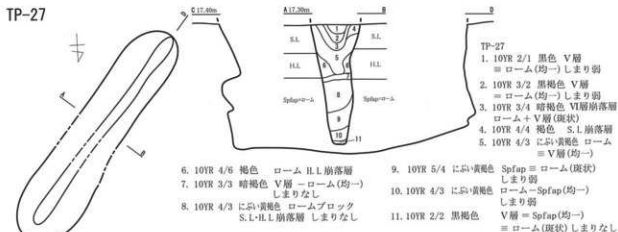


TP-26

- |                  |                              |       |
|------------------|------------------------------|-------|
| 1. 10YR2/2 黒褐色   | V層 = ローム (均一) = Ta-d1・d2 パミス |       |
| 2. 10YR3/3 暗褐色   | V層・ローム (斑状) = Ta-d1・d2 パミス   |       |
| 3. 10YR3/4 暗褐色   | ローム = V層 (斑状)                |       |
| 4. 10YR3/3 暗褐色   | ローム = Spfap = V層 (斑状)        |       |
| 5. 10YR4/3 にい黄褐色 | ローム                          |       |
| 6. 10YR4/6 褐色    | Spfap = ローム (斑状)             | しまりなし |
| 7. 10YR2/2 黒褐色   | V層 - Spfap                   |       |
| 8. 10YR4/3 にい黄褐色 | Spfap = ローム (斑状)             |       |
| 9. 10YR2/2 黒褐色   | V層 = Spfap                   |       |

図 15 TP-24 ~ 26

TP-27



TP-30

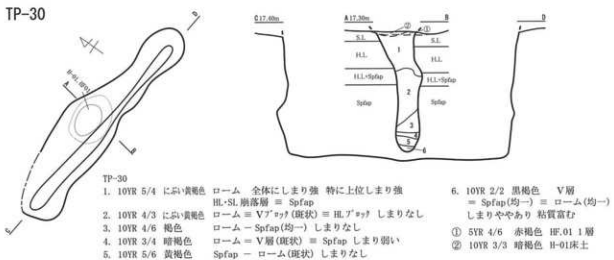


図 16 TP-27・29・30

#### 4 焼土 (図 19～22、表 10・11、写真図版 10、11、12・3・4)

焼土は47ヶ所が検出された。規模や調査面層位等は表11を参照とされたい。多くは調査区の西側に分布し、西側に隣接する沖積地を見下ろす場所に立地している。これらの多くは重機によるV層掘削時に確認したもので、燃焼面を削平し、VI・VII層の被熱赤色化層のみを確認したのも少なからずある(F-30・37～39・42)。燃焼面を確認したもので、V層上位のもの(F-02・05・08～10・14・15・17・21・23・34・47)がやや多く、V層下位からVI層の燃焼面と思われる焼土(F-12・13・19・32・35・36)もある。V層上位は余市式期、V層下位からVI層上位にかけての焼土は柏木川式期の所産と思われる。特徴的な、F-02とF-53についてのみ詳述する(図17～19、表10、写真図版10)。F-02は、沢地形1を重機で掘削中に検出した。燃焼面も残存しており、水平に見られることから投棄焼土ではないことが判断でき、調査時に造成面を注意したが、明瞭な平面形は確認できなかった。また周囲の同一面と考えられる層位で、地文縦回転施文の天祐寺式(図18-1・2)と北筒式の底部片と思われるもの(3)、四面砥石(4)が出土している。層位および周辺出土物から、後期初頭の所産と考えられる。

F-53はF-02調査終了後、V層を掘り下げ、TP-29の平面形確認作業にて検出した。焼土の縁辺部には平行四辺形状に4点の礫が配置され、うち1点はたたき石(図19-1)であった。他3点は自然礫で、いずれも黒色付着物が認められる(2～4: トーン範囲)。なお、検出面では、TP-29の縁辺部側を立石として確認したが、Tビットの中央部側は黒色土落ち込みとともに礫の頭部のみの検出であった(写真図版10-3・4)。焼土燃焼面も黒色土落ち込みに沿うことから、本来は平坦面に形成され、Tビットの覆土の圧縮、沈着と共に燃焼面および構成礫も二次的に動いたものと思われる。伴出遺物は無いが、層位等から柏木川式期の所産と思われる。

#### 5 包含層出土および表面採集の遺物

今回の調査で回収した遺物は、合計749点である(表2)。表採としたものには調査区外の耕作土中のものも含まれている。遺物の時期は縄文時代前期前半の広義の静内中野式期、中期後葉の柏木川式期、中期末葉の北筒式期、後期初頭の余市式期がある。静内中野式土器は1個体のみで、北筒式土器も5個体に留まり、主体は柏木川式・余市式期である。

表2 平成17年度 遺物一覽

種別	土器片	剥片石器	礫石器	剥片類	礫	合計	備考
遺構	80	3	14	6	160	263	
包含層	242	16	12	108	50	428	
表採	48	2	2	3	3	58	調査区外表採遺物も含む。
合計	370	21	28	117	213	749	

##### (1) 土器・土器片加工品(図23-1～29、表3、写真図版13-1)

詳細は表3を参考とされたい。1・2は、同一個体片で、少量の繊維を含み口唇部は丸いことから、広義の静内中野式に相当すると思われる。3～14は柏木川式土器で、縄線文によるものが主体を占め、竹管工具を使用するものはほとんど見受けられない。15～19は北筒式土器で、胎土に微量の繊維を含む特徴がある。15・16にはOI刺突文が施文され、16は地文縄文の節が立っていることから絡条体回転の縞糸文と思われる。17は結節回転文が施文されている。18は胎土に繊維を含まないが、底部側面まで地文が施文されていないことから、北筒式の範疇とした。19は刺突文がなく、胎土は砂礫で構成されており余市式に酷似するが、口唇部形態と刺突列、地文の第1種結束斜行縄文より、北筒式の範疇とした。あるいは、平行関係にある煉瓦台式の隆帯の影響とも考えうる。20～27は後期初頭の土器である。20～22は天祐寺式としたもので、地文縄文が縦回転施文である。内面調整や胎土、貼付帯の形



F-02・53

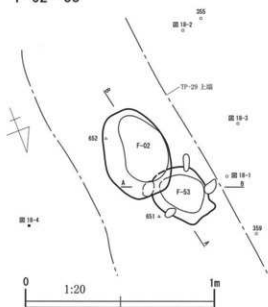
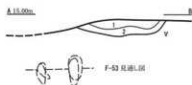


图 17 F-02・53

F-02



1. 5YR 5/6 明赤褐色 V層上位強い被熱 (斑状)
2. 7.5YR3/3 暗褐色 V層上位弱い被熱

F-53



1. 5YR5/8 明褐色 V層強い被熱 (斑状)
2. 7.5YR5/4 紅褐色 V層弱い被熱 (斑状)

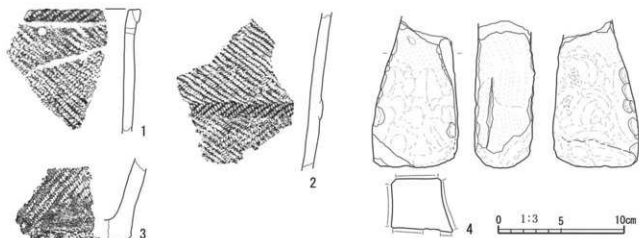


图 18 F-02 周辺出土遺物

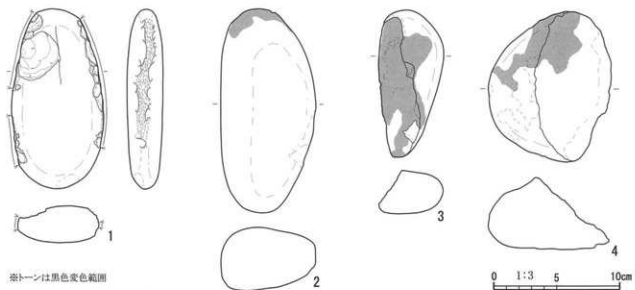
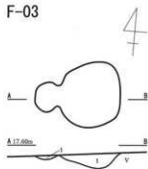


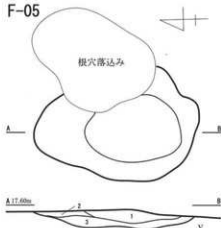
图 19 F-53 構成碟

F-03



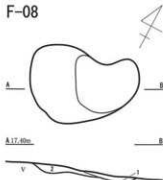
1. 5YR4/6 赤褐色 V層弱い被熱(斑状)  
ローム部赤化強い

F-05



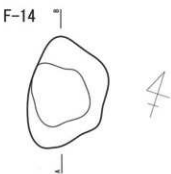
1. 5YR5/8 明赤褐色 V層(均質)強い被熱  
上面に炭化物多量  
2. 5YR5/4 に近い赤褐色 V層上位弱い被熱=炭化物  
3. 7.5YR5/4 に近い褐色 V層弱い被熱=炭化物

F-08



1. 5YR5/6 明赤褐色 V層弱い被熱  
2. 7.5YR4/3 褐色 V層強い被熱(斑状)

F-14



F-09



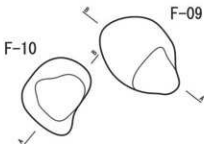
1. 5YR4/6 赤褐色 V層上位強い被熱  
2. 7.5YR4/3 褐色 V層上位弱い被熱  
3. 7.5YR3/2 黒褐色 V層上位弱い被熱

F-10



1. 5YR5/8 明赤褐色 V層上位強い被熱  
V層上面(斑状)  
2. 7.5YR5/4 に近い褐色 V層上位弱い被熱  
粘土ブロック(斑状)

F-10

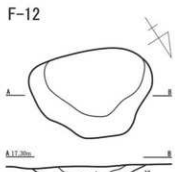


F-14



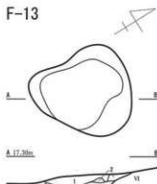
1. 7.5YR5/6 明褐色 V層強い被熱(斑状)  
2. 7.5YR4/3 褐色 V層弱い被熱(斑状)

F-12



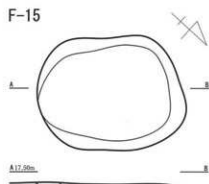
1. 5YR5/8 明赤褐色 V層強い被熱  
2. 7.5YR5/6 明褐色 V層弱い被熱

F-13



1. 5YR5/8 明赤褐色 V層上位強い被熱  
2層上の層取(斑状)  
2. 7.5YR5/4 に近い褐色 V層上位弱い被熱  
3. 10YR5/4 に近い黄褐色 V層下位被熱なし

F-15



1. 5YR5/8 明赤褐色 V層上位強い被熱  
上面(斑状)堆積面  
2. 5YR5/6 明赤褐色 V層上位強い被熱  
3. 7.5YR3/3 暗褐色 V層上位弱い被熱  
4. 7.5YR4/4 褐色 V層上位弱い被熱

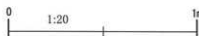
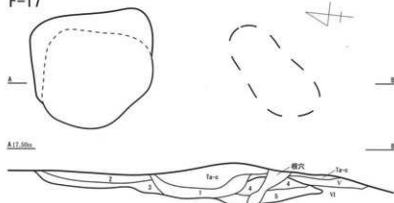


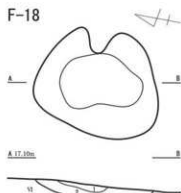
図 20 F-03-05-08 ~ 10-12 ~ 15

F-17



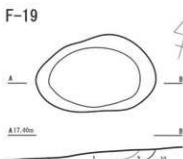
1. 5YR2/3 暗赤褐色 V層=黄土ブロック (底状)=Ta-c(底状) 風倒複乱層
2. 5YR5/8 明赤褐色 V層強い被熱(均一) = 上面炭化物
3. 7.5YR5/6 明褐色 V層強い被熱(底状)
4. 5YR3/6 暗赤褐色 V層やや強い被熱 上位炭化物少量
5. 7.5YR3/2 黒褐色 V層弱い被熱(底状)

F-18



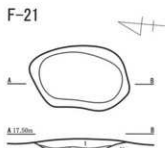
1. 5YR5/6 明赤褐色 V層やや強い被熱(底状)
2. 7.5YR4/3 褐色 V層弱い被熱(底状)

F-19



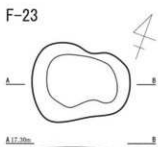
1. 5YR5/6 明赤褐色 V層強い被熱(底状) = 上面炭化物Spap赤色化
2. 7.5YR4/4 褐色 V層弱い被熱(底状)

F-21



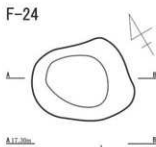
1. 5YR5/8 明赤褐色 V層上位強い被熱 - 上面縁辺部炭化物 (φ1cm 1)
2. 7.5YR5/4 に近い褐色 V層(底状)弱い被熱 = 炭化物

F-23



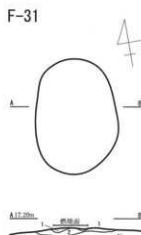
1. 5YR5/6 明赤褐色 V層上位強い被熱(底状)
2. 7.5YR4/4 褐色 V層弱い被熱(底状)

F-24



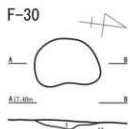
1. 5YR5/8 明赤褐色 V層強い被熱
2. 7.5YR5/4 に近い褐色 V層弱い被熱

F-31



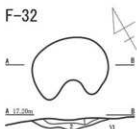
1. 5YR5/8 明赤褐色 V層強い被熱
2. 7.5YR5/6 明褐色 V層弱い被熱(底状) 燃焼面残存 しっかりした黄土

F-30



1. 7.5YR5/6 明褐色 V層被熱(底状) ローム硬化著しい

F-32



1. 5YR5/6 明赤褐色 V層下位強い被熱(底状)
2. 7.5YR5/6 明褐色 V層上位弱い被熱

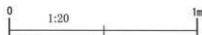
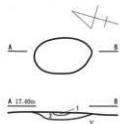


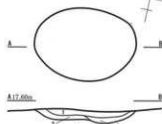
図 21 F-17 ~ 19・21・23・24・30 ~ 32

F-34



1. 5YR4/6 赤褐色 V層上位  
やや強い被熱(斑状)
2. 7.5YR4/4 褐色 V層上位  
やや弱い被熱(斑状)

F-35



1. 5YR4/6 赤褐色 VI層やや強い被熱(斑状)
2. 7.5YR4/4 褐色 VI層弱い被熱(斑状)
3. 7.5YR5/6 明褐色 VI~VII層弱い被熱(斑状)

F-36



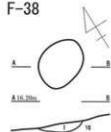
1. 5YR6/4 濃い橙色 VI層下位  
弱い被熱(斑状)
2. 7.5YR6/4 濃い橙色 VII層上位  
弱い被熱(斑状)

F-37



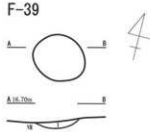
1. 7.5YR6/4 濃い橙色 VII層弱い被熱(均一)  
=炭化物

F-38



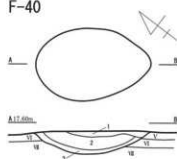
1. 7.5YR6/6 橙色 VII層弱い被熱  
=炭化物

F-39



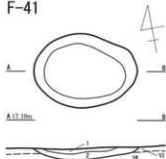
1. 7.5YR6/8 橙色 VII層弱い被熱=炭化物

F-40



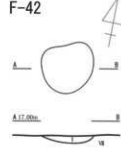
1. 7.5YR4/4 褐色 V層上位未被熱層=2層(斑状)
2. 5YR5/8 明赤褐色 V層下位~VI層強い被熱(均一)
3. 7.5YR5/6 明褐色 VI層~VII層弱い被熱(均一)

F-41



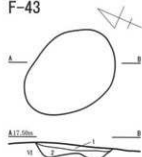
1. 5YR5/8 明赤褐色 VI層強い被熱漸移的
2. 7.5YR5/6 明褐色 VII層上位弱い被熱

F-42



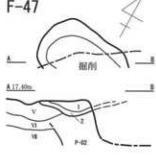
1. 5YR6/6 褐色 VII層弱い被熱(均一)  
□→△硬化

F-43



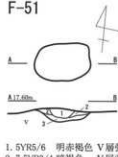
1. 5YR5/4 濃い赤褐色 VI層  
やや強い被熱(斑状)
2. 7.5YR6/4 濃い橙色 VI層弱い被熱(斑状)

F-47



1. 5YR5/6 明赤褐色 V層上位強い被熱  
=炭化物
2. 5YR4/6 赤褐色 V層  
やや強い被熱(斑状)

F-51



1. 5YR5/6 明赤褐色 V層強い被熱(均一)
2. 7.5YR3/4 暗褐色 V層弱い被熱(斑状)
3. 7.5YR4/4 褐色 V層弱い被熱(均一)



図 22 F-34 ~ 43・47・51

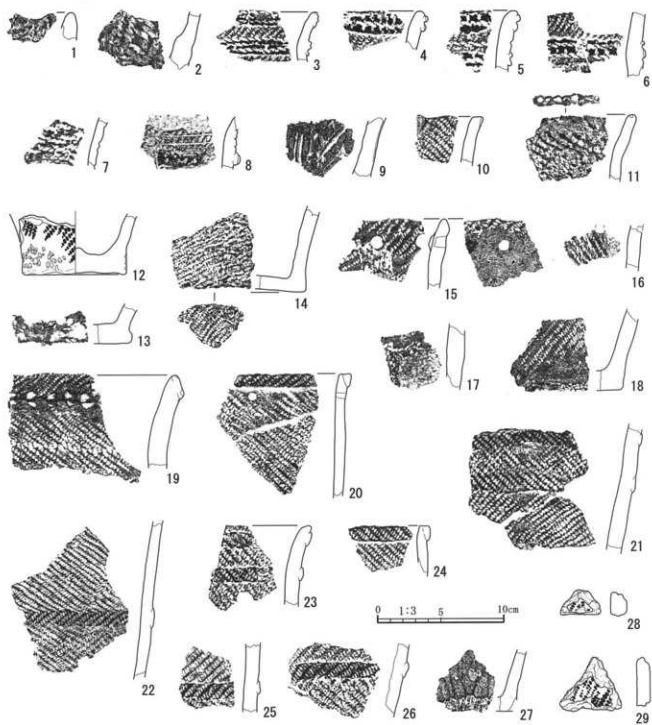


図 23 包含層出土および表面採集の土器・土器片加工品

表3 包含層出土陶磁土器屬性一覽表

図番号	遺物番号	大/小	部位	時期	形式名	部位	器形等	文様	粘土	備考
23-1	500-1	Q-14	Vb	前期前半	静内甲形式	口縁部	直立/丸	LR斜行縄文	細砂・凝灰少量	22向一割体
23-2	500-2	Q-14	Vb	前期前半	静内甲形式	胴部	やや外傾	貼付帯・縦位縄文(1本)	細砂・凝灰少量	12向一割体
23-3	421	P-12	Vc	中期後半	柏木川式	口縁部	外反/隅丸角	貼付帯・縦位縄文(3本)	細砂・凝灰少量	
23-4	840	P-11	Vc	中期後半	柏木川式	口縁部	外反/丸	貼付帯・縦位縄文	細砂・凝灰少量	
23-5	982	P-11	Vc	中期後半	柏木川式	口縁部	やや外反/尖状	貼付帯・縦位縄文	細砂・凝灰少量	
23-6	577+830 +832	P-11	Vc	中期後半	柏木川式	胴部上位	やや外傾	貼付帯・縦位縄文	凝灰多・細砂少量	
23-7	983	表 採		中期後半	柏木川式	胴部上位	外反	縄文(1条)+LR斜行縄文	細砂・凝灰少量	
23-8	509	Q-11	Vb	中期後半	柏木川式	胴部上位	やや外反	貼付帯・縄文	凝灰多・細砂少量	地文施文後の貼付帯
23-9	637	P-13	Vc	中期後半	柏木川式	底側部	-	無文地・半截竹管花縄文	細砂・凝灰少量	
23-10	641	P-14	Vc	中期後半	柏木川式	口縁部	直立/角	RL斜行縄文	細砂・凝灰少量	
23-11	384	P-14	Vb	中期後半	柏木川式	口縁部	外反/隅丸角	刺突文/RLR複斜行縄文	凝灰多・細砂少量	
23-12	409	P-10	Vb	中期後半	柏木川式	底部	直立/外反	刺突文/第1種結束斜行縄文/底内面突縁	凝灰多・細砂少量	
23-13	641	P-14	Vc	中期後半	柏木川式	底部	側面突/外反/やや上底	無文	凝灰多・細砂少量	焼行刺汗著
23-14	294	P-14	Vc	中期後半	柏木川式	底部	直立/外反/やや上底	LR斜行縄文/底面+LR縄文	細砂・凝灰少量	
23-15	980	表 採		中期後半	北簡式	口縁部	直立/丸	O1突縁・O段多条LR斜行縄文	細砂・凝灰多量	
23-16	973	表 採		中期後半	北簡式	口縁下位	やや外反/-	O1突縁・O段多条LR斜行縄文	凝灰多量	
23-17	976	表 採		中期後半	北簡式	胴部	直立	O1突縁・O段多条LR斜行縄文	凝灰多・凝灰少量	
23-18	356	N-13	Vb	中期後半	北簡式	底部	-	RL斜行縄文・側面回転文	凝灰多・凝灰少量	
23-19	578	P-11	Vc	中期後半	北簡式	口縁部	直立/やや外反	O段多条LR斜行縄文	凝灰多量	
23-20	357+358	N-13	Vb	後期初頭	天祐寺式	口縁部	外反/尖状(断面三角肥厚)	押引文・第1種結束斜行縄文	凝灰多量	
23-21	392	P-11	Vb	後期初頭	天祐寺式	口縁部	直立/角	貼付帯・LR斜行縄文(縦・横回転施文羽状構成)	凝灰多量	補修孔2穴
23-22	354	N-13	Vb	後期初頭	天祐寺式	胴部下位	外傾	貼付帯・LR斜行縄文(縦・横回転施文羽状構成)	凝灰多量	
23-23	308	Q-15	Vb	後期初頭	余市式	胴部	直立	貼付帯・O段多条LR斜行縄文(縦・横回転施文羽状構成)	凝灰多量	内面3ヶ斗
23-24	293	Q-14	Vb	後期初頭	余市式	口縁部	外反/内附舌隅丸角	貼付帯・O段多条LR斜行縄文	凝灰少量	補修孔1穴
23-25	952	表 採		後期初頭	余市式	胴部上位	直立/角	貼付帯・O段多条LR斜行縄文	凝灰少量	
23-26	416	P-11	Vb	後期初頭	余市式	胴部下位	やや外傾	貼付帯・O段多条LR・RL羽状縄文	凝灰多量	
23-27	350	表 採		後期初頭	余市式	底蓋	外傾	貼付帯・O段多条LR・RL羽状縄文	凝灰多量	内面刺腫
23-28	737	P-11	Vb	中期後半	柏木川式	三角形土蓋片加工品	-	無文(クワリ→ナナリ)底面調整(クワリ→ナナリ)	凝灰多・凝灰少量	打ち穴3箇所形
23-29	517	Q-11	Vb	中期後半	柏木川式	三角形土蓋片加工品	-	LR斜行縄文	凝灰多・凝灰少量	打ち穴3箇所形

状も他の余市式とは異なり、「道南的な様相をもつもの」(赤石 2002)である。23~26は余市式で、胴部下半まで燃りの異なる原体で施文する多段の羽状構成を成す。なお、余市式土器の中で、円形刺突文が施されている破片は出土していない。27は無文土器の底部資料で、縦ケズリ整形ののち、ナデ調整が施され、底面はミガキ調整である。胎土より余市式期のものと思われる。

28・29は「三角形土器片加工品」(松谷 1992)で、柏木川式土器片の打ち欠き整形によるものである。

## (2) 石器 (図 24-1~11、写真図版 14)

### A 剥片石器

全て黒曜石製で、1は無茎石鏃で、裏面に素材剥片の主剥離面を大きく残している。2~5は菱形・木葉形の石鏃で、2は未成品ないしはナイフの可能性もある。6は石鏃で、把握部の剥離は荒いが、錐部先端は微細な剥離がみられ、断面形はプロペラ状となっている。7・8はナイフ・スクレイパー類で、7は両側縁が湾入する刃部、8は節理面をもつ板状の原石を素材とし、右側縁に突出する刃部が作出されている。9・10はR.F.で、9は縦長剥片の両側縁に浅いリタッチが見られる。10は転蹠からの一次剥片を素材として、粗い剥離加工が施されている。11は石核で、一部に原石拱理面が残存する。部分的に微細剥離が見られ、スクレイパーとして利用されていた可能性もある。

石材となった黒曜石の多くは、流紋岩小球果が層状に観察できる赤井川産と思われるものが主体で、石材からみても遺跡の主体時期である中期後半から後期初頭にかけての石器群と思われる(杉浦 1990・大泉 1992)。

### B 礫石器

1~4は磨製石斧で、1は刃部に剥離による再調整が施されている。2は再加工作品で、側縁に敲打による抉りが作り出されている。3は基部片、4は前後面の破片資料である。5~7はたたき石で、5は比較的大型であることから台石としても利用された可能性がある。8は粒度の荒い砂岩を用いた石鋸片。9は、いわゆる「四面砥石」である。

たたき石や他の礫の石材は、片麻岩が多く、町内北部の幌内地区の遺跡群とは大きく異なりを見せている。

## Ⅲ まとめ

今回の調査では、住居跡やTピットなどの遺構や柏木川式、余市式土器を中心とした遺物等、当初の想定以上の検出であった。遺跡の立地する厚真町南部の火山灰台地は、広大な低湿地の広がる勇払平野に面し、昭和51年より大規模な発掘調査が行われた「苫小牧東部工業地帯」(以下、苫東)の遺跡群と同じ立地環境にある。苫東地域内にも同時期の集落遺跡や狩猟場と考えられるTピットを主体とする遺跡などが数多くあり、中期後半の柏木川式期以降、余市式期までの住居数が増加することが指摘されている(宮夫 2000)。鯉沼3遺跡も同様な様相を呈している。出土遺物やTピットの主体類型からも同じ地域圏内と考えられ、むしろ同じ町内の幌内地区の遺跡とは若干の異なりを見せる。

また、苫東基地内や浜厚真3遺跡(道理文 2003)で数多く検出されているTピットの構築時期を推察できる確実な資料が得られた。この地域におけるA1型の構築時期が中期後半の柏木川式期以前に遡ることが確認でき、周辺地域で確認されている事例(大泰司 2002)を補強する資料が得られた。

最後に、調査にあたり、北海道教育庁生涯学習部文化課 藤原 秀樹氏には、協議段階、調査期間において多々御指導を賜り、また、期間延長のほか、地元小学校の体験発掘授業受け入れの快諾や、重機や作業員提供、報告書作成に多大なる御理解と御協力を賜りました有限会社 新興産業 高橋 利光様・西原 利一様・今野 二男様や大浦 一栄様に、深く感謝を申し上げます。

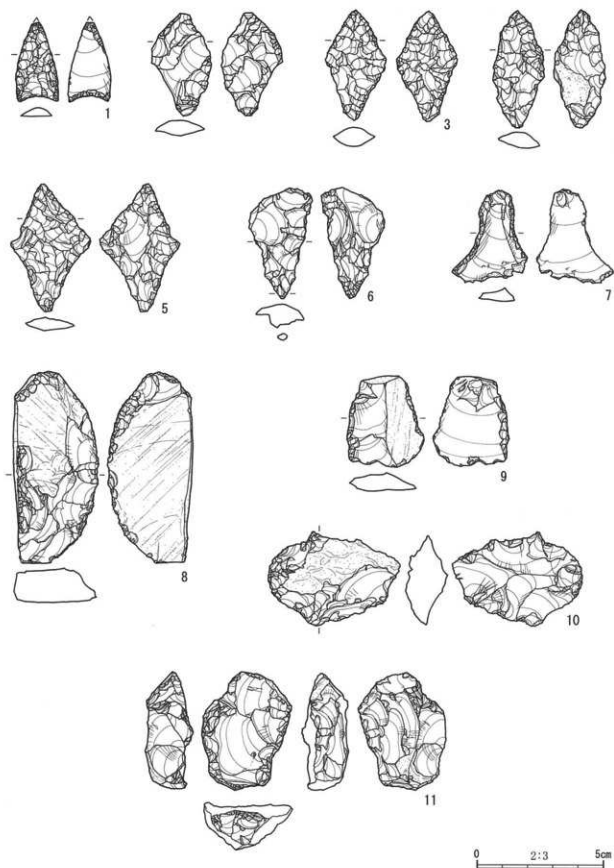


图 24 包含層出土の剥片石器



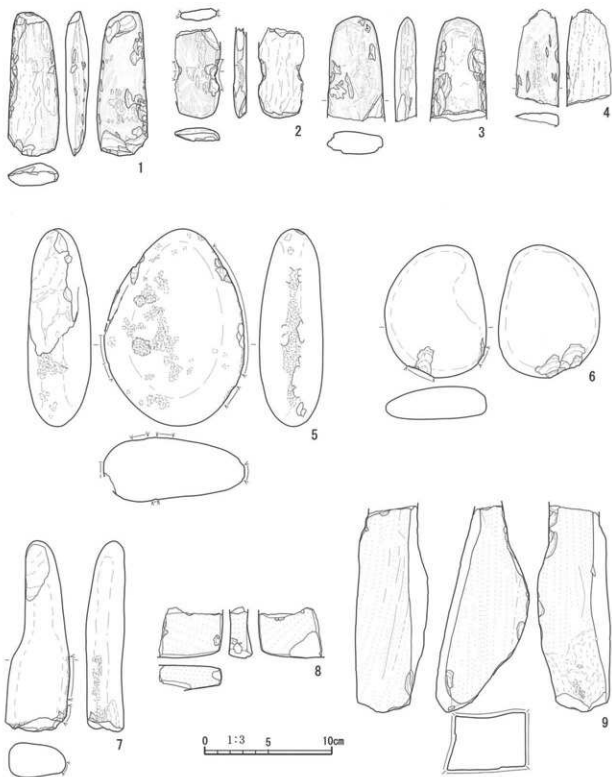


図 25 包含層出土および表面採集の礫石器

表4 住居跡属性表

図番号	図版番号	遺構名	グリッド	平面形	上端規模		深さ	所属時期	備考
					長軸	短軸			
4	2	H-01	P-Q-11	円形	318	296	36	縄文中期 後葉	出土遺物点数：合計242点 覆土1～3層：土器片52 剥片石器類1 礫石器類4 剥片類1 礫14 計72点 床面4層：土器片22 礫石器類8 剥片類1 礫139 計170点 出土遺物点数：合計5点
		HF01		楕円形	46	33	7		
		HP01		円形	19	18	18		
		HP02		楕円形	18	15	8		
7	3	H-02	P-Q-12	楕円形 (752)	736	36	縄文後期 初葉	覆土1～3層：土器片2 床面4層：土器片1 剥片石器1 礫石器1	
		HF01		楕円形	50	35			5
		HP02		楕円形	52	46			10

※長軸・短軸・深さの単位：cm

表5 H-01 掲載土器属性表

図番号	図版番号	遺物番号	型式名	層位	部位	文様	備考
5-1	12-1-1	431+432 +433+438 +442.1 +529+620 +621+658	余市式	2層 覆土上層	胴部	LR・RL羽状縄文(多段構成) +貼付帯	
5-2	12-1-2	439-1	柏木川式	2層 覆土上層	口縁部	縄線文/縄線文+LR斜行縄文	
5-3	12-1-3	450	余市式	2層 覆土上層	口縁部	無文帯+縦横位貼付帯 +RL斜行縄文 (縦位回転施文有)	
5-4	12-1-4	526	余市式	1層 覆土上層	底部	0段多条LR斜行縄文	
5-5	12-1-7	614	柏木川式 (三角形土器 片加工品)	4層 床面	-	LR斜行縄文、打ち欠き整形	
5-6	12-1-8	563	柏木川式 (三角形土器 片加工品)	3層 覆土下層	-	LR斜行縄文、打ち欠き整形	
5-7	12-1-5	439-2+608 +671+730 +850	柏木川式	3層 覆土下層 4層 床面	口縁部	口縁部外反/平縁+山形突起・ 口唇断面丸形/LR斜行縄文	8と同一個体、内面調整粗 (指頭正痕著)、 炭化物付着著
5-8	12-1-8	432+615 +656+663 +675+687 +688+689	柏木川式	3層 覆土下層 4層 床面	胴部	LR斜行縄文	7と同一個体、内面調整粗 (へら状工具調整痕著)、 炭化物付着著

表6 H-01 掲載礫石器属性表

図番号	図版番号	遺物番号	器種名	層位	計測値				石材	備考
					長軸	短軸	厚さ	重量		
5-9	12-1-9	661	石斧	2	73	43	12	70.8	緑色泥岩	刃部欠損
5-10	12-1-10	720	石斧未成品	4層床面	72	57	22	121.3	緑泥片岩	折損
5-11	12-1-11	618+884	石斧製作片	4層床面	65	46	12	29.8	緑泥片岩	

※長軸・短軸・深さの単位：mm 重量の単位：g

表7 H-02 出土石器 掲載遺物属性表

図番号	図版番号	遺物番号	器種名	層位	計測値				石材	備考
					長軸	短軸	厚さ	重量		
7-1	12-2-1	682	スクレイパー	4層床面	38	24	11.9	6.3	黒曜石	
7-2	12-2-2	681	短冊状石製品	4層床面	30	11	4	2.6	青色片岩	

※長軸・短軸・深さの単位：mm 重量の単位：g

表8 土坑属性表

図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査面層位	平面形	調査面規模 長軸 短軸	深さ	備考
8	4-1-2	P-01	Q-12-13	Ⅷ層	円形	111 100	28	
8	4-3-4	P-02	Q-10	Ⅷ層	楕円形	188 158	14	坑底面に炭化物層有。F-47と重複。
8	4-5	P-03	Q-10	Ⅷ層	円形	116 102	20	坑底面硬い。
8	4-6	P-04	Q-R-10	Ⅷ層	長方形	164 98	26	坑底面硬い。
8	4-7-8	P-05	P-Q-11	Ⅷ層	楕円形	(100) 97	22	H-01と切り合い関係。坑底面硬い。

※長軸・短軸・深さの単位：cm

表9 Tピット属性表

図番号	図版番号	遺構名	グリッド	平面形	分類	調査面規模 長軸 短軸	坑底面規模 長軸 短軸	深さ	調査面 長短比	坑底面 長短比	坑底面 方向	坑本数	備考
9	5-1-3-4	TP-08	N-O-14	溝状	A1	316 48	256 17	124	6.58	15.06	N-30°	0	
9	5-4-5-6	TP-09	O-12-13	溝状	A1	300 84	260 16	120	3.57	16.25	N-35°	0	
10	5-4-5-8	TP-10	O-12	溝状	A1	276 28	248 12	128	9.86	20.67	N-6°	0	切合い：TP-11(新旧不明)
10	5-4-5-8	TP-11	O-12	溝状	A1	316 68	272 12	152	4.65	22.67	N-31°	0	切合い：TP-10(新旧不明)
10	5-4-5-7	TP-12	O-12	溝状	A1	340 64	344 19	124	5.31	18.11	N-25°	0	
11	6-1	TP-13	Q-10	溝状	A1	324 76	356 16	108	4.26	22.25	N-24°	0	
9	5-1-3	TP-14	O-14 N-13-14	溝状	A1	312 72	272 17	168	4.33	16.00	N-35°	0	
11	6-3-4	TP-15	Q-12-13	長楕円形	A1	252 80	268 12	112	3.15	22.33	N-83°	0	V層落込みに大型礎1点
11	6-3-5	TP-16	Q-12	長楕円形	B1	200 84	180 32	144	2.38	5.63	N-84°	0	V層落込みに大型礎1点
12	6-3-17	TP-17	Q-12	溝状	A1	300 92	294 28	120	3.26	10.50	N-85°	0	
12	7-1-2	TP-18	R-12-13	溝状	A1	364 96	364 25	164	3.79	14.56	N-68°	0	
12	7-1-3	TP-19	R-13	溝状	A1	252 40	208 12	88	6.30	17.33	N-15°	0	
13	7-4-5-6	TP-20	R-S-13	溝状	A1	408 72	388 25	144	5.67	18.52	N-31°	0	切合い：TP-28より古い
14	8-1	TP-21	T-11	溝状	A1	332 76	284 12	136	4.37	23.67	N-75°	0	
14	8-2	TP-22	S-T-10	溝状	A1	312 60	240 20	144	5.20	12.00	N-62°	0	
14	8-3-4	TP-23	P-10	溝状	A1	336 80	264 17	124	4.20	15.53	N-50°	0	
14	8-5-6	TP-24	T-10-11	溝状	A1	260 76	236 22	112	3.42	10.73	N-54°	0	
15	9-1-2	TP-25	S-T-10	楕円形	C	104 74	92 38	88	1.41	2.42	N-73°	1	
15	9-3	TP-26	S-9-10	溝状	A1	256 80	236 16	152	3.20	14.75	N-67°	0	
16	9-4	TP-27	Q-8-9	溝状	A1	264 68	244 16	136	3.88	15.25	N-39°	0	
13	7-4-5-7-8	TP-28	S-12-13	長楕円形	A2	192 80	164 20	132	2.40	8.20	N-74°	0	切合い：TP-20より新しい
16	9-5	TP-29	N-O-13	溝状	A1	340 76	320 20	176	4.47	16.00	N-19°	0	重複：F-02(新)・53(中)より古い
16	9-6	TP-30	P-Q-11	溝状	A1	252 64	228 16	132	3.94	14.25	N-85°	0	重複：H-01より古い

※長軸・短軸・深さの単位：cm

表10 F-02・53 掲載出土遺物属性表

図番号	図版番号	遺構名	遺物番号	器種名	計測値			部位 石材	備考	
					長軸	短軸	厚さ			
18-1	12-3-1	F-02	357+358	天祐寺式	-	-	-	口縁部	図23-20に再掲載。詳細は表3に掲載。	
18-2	12-3-2		354	天祐寺式	-	-	-	胴部	図23-22に再掲載。詳細は表3に掲載。	
18-3	12-3-3		356	北筒式	-	-	-	底部	図23-18に再掲載。詳細は表3に掲載。	
18-4	12-3-4		411	四面砥石	116	69	45.5	470	砂岩	折損。
19-1	12-4-1	F-53	573	たたき石	142	72	28.5	490	片麻岩	被熱。
19-2	12-4-2		574	礎	119	97	57.5	800	片麻岩	被熱。黒色付着物有り。
19-3	12-4-3		575	礎	116	51.5	34	280	片麻岩	被熱。黒色付着物有り。
19-4	12-4-4		653	礎	161.5	74	50.5	990	片麻岩	被熱。黒色付着物有り。

※長軸・短軸・深さの単位：mm 重量の単位：g

表11 焼土属性表

図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査面 層位	平面形	規 模			備 考
						長軸	短軸	厚さ	
17	10-1・2	F-02	N-13	V層上位	楕円形	48	35	4	F-53・TP-29と重複。
20	-	F-03	O-12	V層下位	楕円形	46	32	8	
-	-	F-04	P-12	V層	不整形	69	59	-	
20	-	F-05	P-12	V層上位	楕円形	98	58	8	
-	-	F-06	P-12	V層	不整形	48	44	-	
-	-	F-07	P-13	V層	不整形	43	34	-	
20	11-1	F-08	P-13	V層下位	不整形	58	42	4	
20	11-1	F-09	P-13	V層上位	楕円形	50	34	6	
20	11-1	F-10	P-13	V層上位	楕円形	36	34	8	
-	11-1	F-11	P-13	V層上位	楕円形	79	62	-	
20	11-1・2・3	F-12	P-13	VI層上位	楕円形	65	48	9	
20	11-1・2・4	F-13	P-13	VI層上位	隅丸三角形	54	48	8	
20	11-1	F-14	P-13	V層上位	不整形	60	40	8	
20	11-1・5	F-15	P-13	V層上位	楕円形	79	61	12	
-	-	F-16	P-13	V層	楕円形	55	45	-	
21	11-6	F-17	P-13	V層上位	不整形	152	49	14	
21	-	F-18	P-14	VI層上位	楕円形	64	58	8	
21	-	F-19	P-14	VI層上位	長楕円形	62	41	10	
-	-	F-20	P-14	V層	不整形	80	55	-	
21	-	F-21	P-14	V層上位	長楕円形	55	34	7	
-	-	F-22	P-14	V層	長楕円形	85	62	-	
21	-	F-23	P-14	V層上位	楕円形	52	42	9	
21	-	F-24	Q-14	V層下位	楕円形	54	44	6	
-	-	F-25	Q-15	V層	不整形楕円形	38	29	-	
-	-	F-26	欠番	-	-	-	-	-	
-	-	F-27	Q-14	V層	楕円形	49	34	-	
-	-	F-28	Q-14	V層	楕円形	38	31	-	
-	-	F-29	Q-R-14	V層	楕円形	60	44	-	
21	-	F-30	P-13	VI層下位	楕円形	35	25	4	
21	-	F-31	Q-13	V層下位	楕円形	60	43	4	
21	-	F-32	P-13・12	VI層下位	不整形楕円形	40	33	6	
-	-	F-33	P-11	V層	円形	58	55	-	
22	11-7・8	F-34	P-12	V層上位	長楕円形	31	19	4	旧：F-53A
22	-	F-35	Q-11	VI層下位	楕円形	53	38	6	
22	-	F-36	Q-9	VI層下位	長楕円形	50	36	6	
22	-	F-37	R-10	VII層上位	不整形楕円形	44	26	8	
22	-	F-38	S-10	VII層上位	楕円形	28	21	5	
22	-	F-39	S-9	VII層上位	円形	28	24	4	
22	-	F-40	P-11	V層下位	長楕円形	61	38	12	
22	11-9・10	F-41	R-11	VI層下位	楕円形	54	38	6	
22	-	F-42	Q-15	VII層上位	不整形円形	29	26	4	
22	-	F-43	Q-15	V層	楕円形	53	38	8	
-	-	F-44	Q-15 R-14・15	V層	楕円形	50	41	-	
-	-	F-45	Q-11	V層	不整形長楕円形	91	41	-	旧：F-02B
-	-	F-46	欠番	-	-	-	-	-	
22	11-11・12	F-47	Q-12	V層上位	-	44	31	8	H-02、HF02へ変更 一部掘削。P-02と重複。P-02より新。
-	-	F-48	欠番	-	-	-	-	-	
-	-	F-49	Q-15	-	楕円形	39	32	-	
-	-	F-50	欠番	-	-	-	-	-	
22	-	F-51	P-12	V層下位	楕円形	30	22	7	
-	-	F-52	欠番	-	-	-	-	-	
17	10-3・4・5	F-53	N-13	V層下位	楕円形	27	25	3.5	配石炉、F-02・TP-29と重複。

※長軸・短軸・深さの単位：cm

表12 包含層出土掲載剥片石器表

図番号	図版番号	遺物番号	器種名	調査区	層位	計測値			石材	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
23-1	13-2-1	388	石鏃	0-12	V層上位	32	17	3.8	1.8	黒曜石	先端欠損。石材に透明部分有。
23-2	13-2-2	347	石鏃	P-14	V層上位	42	24	5.7	4.6	黒曜石	原石面有。球果多量・層状列。
23-3	13-2-3	945	石鏃	Q-11	V層上位	45	24	8	5.6	黒曜石	
23-4	13-2-4	514	石鏃	Q-11	V層上位	47	20	7.6	5.3	黒曜石	原石面有。球果微量・層状列。
23-5	13-2-5	568	石鏃	P-14	V層上位	51	32	6.5	6.4	黒曜石	球果微量・層状列。
23-6	13-2-6	799	石錐	Q-13	V層上位	45	38	9	5.5	黒曜石	原石面有。球果微量・層状列。
23-7	13-2-7	295	切削器	Q-14	V層上位	36	30	8.5	4.1	黒曜石	原石面有。
23-8	13-2-8	383	切削器	Q-14	V層上位	77	33	13.8	40.9	黒曜石	原石面有。球果微量・層状列。
23-9	13-2-9	414	切削器	O-12	V層上位	40	22	5	8.7	黒曜石	原石面有。球果多量・層状列。
23-10	13-2-10	628	石核	P-13	V層下位	53	36	17.6	21.7	黒曜石	転覆面有。
23-11	13-2-11	652	石核	O-13	V層上位	48	33	14.6	22.5	黒曜石	原石面有。

※長軸・短軸・深さの単位: mm 重量の単位: g

表13 包含層出土掲載礫石器属性表

図番号	図版番号	遺物番号	器種名	グリッド	層位	計測値			石材	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
24-1	14-1-1	352	石斧	P-13	V層上位	114	40	18	116.7	緑色泥岩	
24-2	14-1-2	518	石斧	Q-11	V層上位	71	35.5	9	39.9	青色片岩	石斧再加工品。
24-3	14-1-4	508	石斧	Q-11	V層上位	82	45.6	17	109.3	緑泥片岩	
24-4	14-1-3	429	石斧片	P-9	V層上位	77	34.5	10	36.3	青色片岩	
24-5	14-1-5	580	たたき石	P-11	V層下位	156	114	50	1,200	片麻岩	
24-6	14-1-6	969	たたき石		表採	104.5	80	25.5	350	片麻岩	
24-7	14-1-8	391	たたき石	P-13	V層上位	150	50	30.5	280	砂岩	被熱。
24-8	14-1-8	999	石鏢		表採	49	40	18	44.1	砂岩	折損。
24-9	14-1-9	363	四面砥石	O-13	V層上位	162.5	74	57.5	580	砂岩	折損。

※長軸・短軸・深さの単位: mm 重量の単位: g

## 参考文献

- 厚真町教育委員会 2001 『鯉沼2遺跡』  
 厚真町教育委員会 2001 『豊川1遺跡』  
 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』  
 厚真町教育委員会 2005 『鯉沼3遺跡』  
 財団法人 北海道埋蔵文化財センター 2003 『厚真町 辰厚真町3遺跡』北理調報186  
 苫小牧市教育委員会 1998 『美沢東遺跡群』  
 苫小牧市教育委員会 1998 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅱ  
 苫小牧市教育委員会 1998 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅴ  
 苫小牧市教育委員会 1998 『静川37遺跡』  
 富良野市教育委員会 1999 『無頭川遺跡-富良野工業高等学校地点Ⅰ-』  
 富良野市教育委員会 2000 『無頭川遺跡-富良野工業高等学校地点Ⅱ-』  
 富良野市教育委員会 2002 『無頭川遺跡-富良野工業高等学校地点Ⅲ-』  
 赤石 慎三 1992 『第4章 第4節 小括』『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅷ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
 大泉 博嗣 1987 『第2章 第2節 遺構の分類』『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅱ  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
 1992 『第6章 第5節 小括』『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅳ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
 大森司 統 2002 『切り合うTビット』『北海道考古学』38 北海道考古学会  
 杉浦 重信 1990 『北海道における黒曜石の交易について』『古代文化』10 財団法人 古代学協会  
 松谷 純一 1992 『南島松3遺跡A地点』『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』  
 恵庭市教育委員会  
 宮夫 靖夫 2000 『苫東遺跡群における集落の様相』『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報』2  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター



1. 調査前近景 (SW→)



2. 火山灰除去状態 (N→)



3. 包含層除去状況 (SW→)



4. Tピット調査状況 (NW→)



5. 焼土調査状況 (W→)

写真図版 2



1. H-01 完掘 (N→)



2. H-01 N-S ライン土層堆積 (W→)



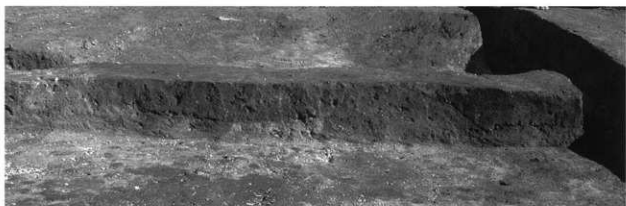
3. H-01 壁際床面直上炭化材出土状態 (W→)



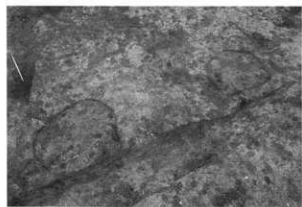
4. H-01. HF01 検出・緑色泥岩片出土状態 (SE→)



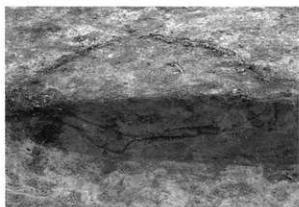
1. H-02 完掘 (NW→)



2. H-02 E-Wライン (E側) 堆積 (N→)



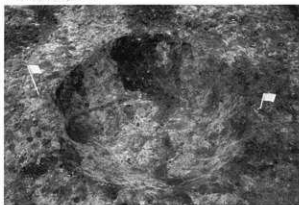
3. H-02. HF01 (右奥)・02 (左手前) (W→)



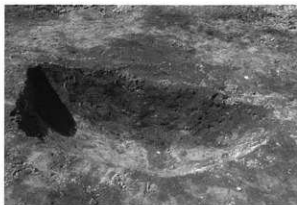
4. H-02. HF01 堆積 (W→)



写真図版 4



1. P-01 完掘 (N→)



2. P-01 堆積 (N→)



3. P-02 検出 (SE→)



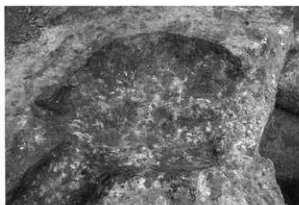
4. P-02 完掘 (S→)



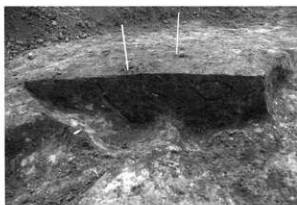
5. P-03 完掘 (S→)



6. P-04 完掘 (SE→)



7. P-05 完掘 (S→)



8. P-05 堆積 (S→)



1. TP-08-14 完掘 (NW→)



2. TP-08 堆積 (NW→)



3. TP-14 堆積 (NW→)



4. TP-08 ~ 12 検出 (S→)



5. TP-08 ~ 12 完掘 (S→)



6. TP-09 堆積 (NW→)

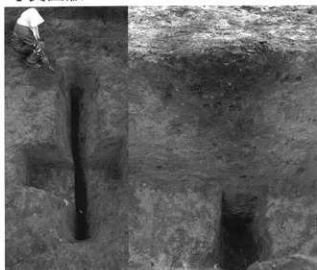


7. TP-12 堆積 (NE→)



8. TP-10-11 堆積 (N→)

写真図版 6



1. TP-13 完掘および堆積 (N→)



2. TP-16・17 検出 (NW→)



3. TP-15 ~ 17・P-01 完掘 (NE→)



5. TP-16 堆積 (E→)



4. TP-15 堆積 (W→)



6. TP-17 堆積 (W→)



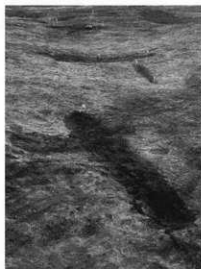
1. TP-18-19 完掘 (W→)



2. TP-18 堆積 (SW→)



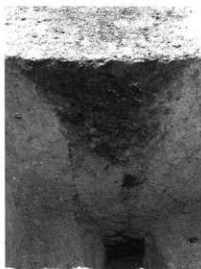
3. TP-19 堆積 (N→)



4. TP-20-28 検出 (N→)



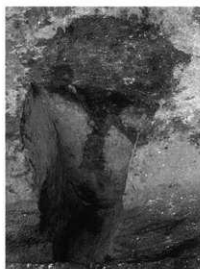
5. TP-20-28 完掘 (S→)



6. TP-20 堆積 (NE→)

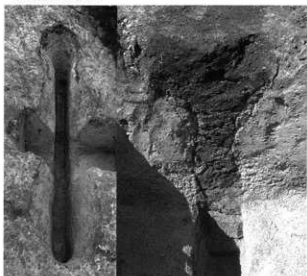


7. TP-28 完掘 (W→)



8. TP-28 堆積 (W→)

写真図版 8



1. TP-21 完掘および堆積 (E→)



2. TP-22 完掘および堆積 (SW→)



3. TP-23 完掘 (SW→)



4. TP-23 堆積 (SW→)



5. TP-24 完掘 (SE→)



6. TP-24 堆積 (SE→)



1. TP-25 完掘 (E→)



2. TP-25 堆積 (E→)



3. TP-26 完掘および堆積 (W→)



4. TP-27 完掘および堆積 (NE→)



5. TP-29 完掘および堆積 (N→)  
奥は F-53



6. TP-30 完掘および堆積 (W→)

写真図版 10



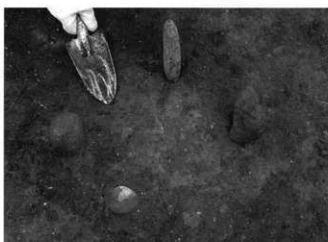
1. F-02 検出および周辺遺物出土状態 (NE→)



2. F-02 堆積 (SW→)



3. TP-29 および F-53 検出 (N→)



4. F-53 検出 (NE→)



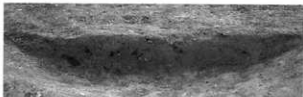
5. F-53 堆積 (NE→)



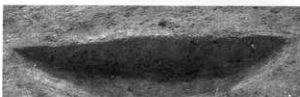
1. F-09 ~ 15 検出 (S→)



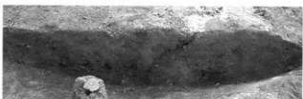
2. F-12・13 検出 (SE→)



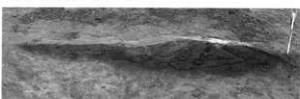
3. F-12 堆積 (N→)



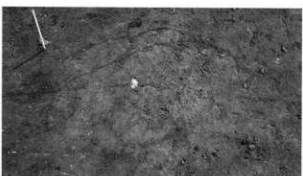
4. F-13 堆積 (SE→)



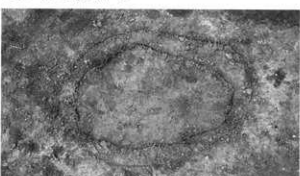
5. F-15 堆積 (E→)



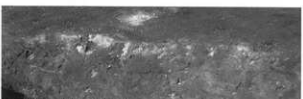
6. F-17 堆積 (W→)



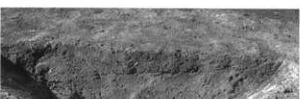
7. F-34 検出 (W→)



9. F-41 検出 (S→)



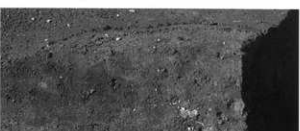
8. F-34 堆積 (W→)



10. F-41 堆積 (S→)



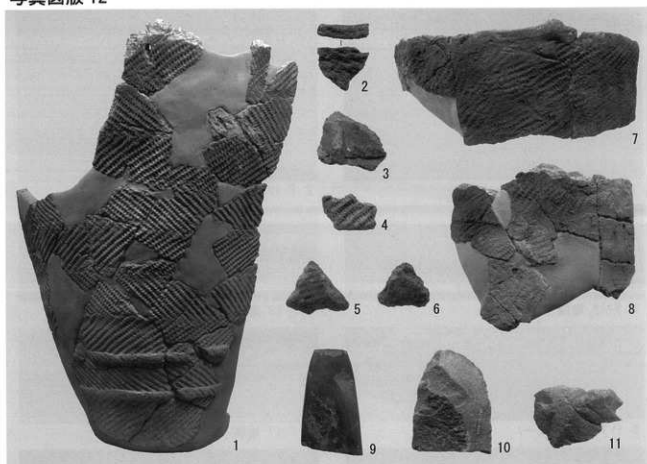
11. F-47 検出 (SE→)



12. F-47 堆積 (SW→)



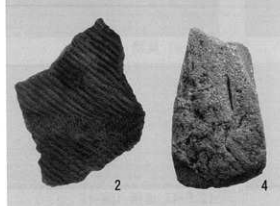
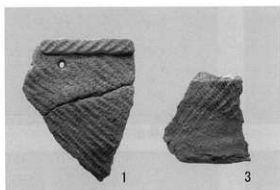
写真図版 12



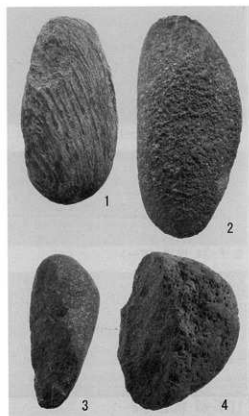
1. H-01 出土遺物 (S=1/3)



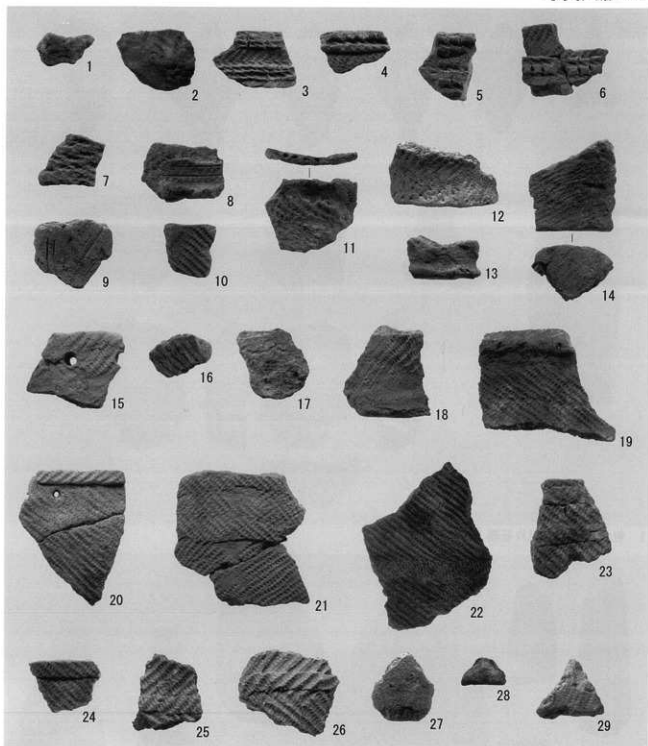
2. H-02  
出土遺物  
(S=2/3)



3. F-02 周辺 出土遺物 (S=1/3)

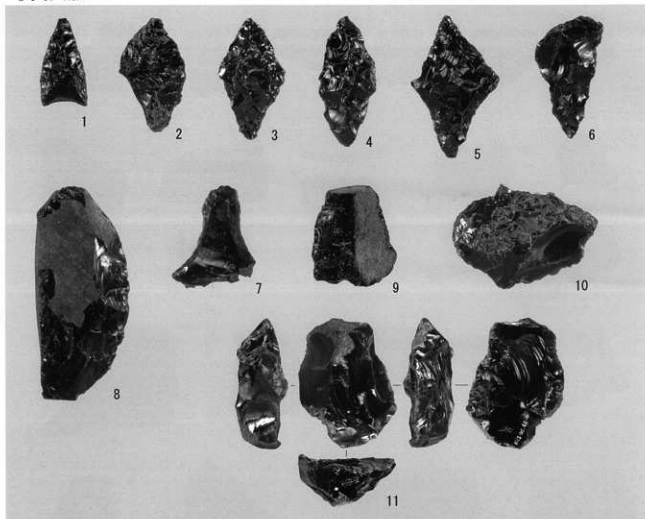


4. F-53 配石構成碟 (S=1/3)

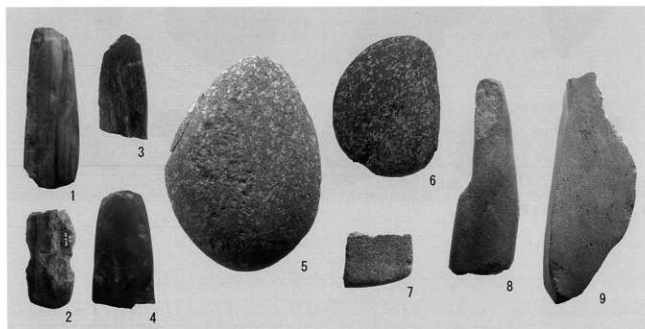


1. 包含層出土の土器 (S=1/3)

写真図版 14



1. 包含層出土の剥片石器 (S=1/2)



2. 包含層出土の礫石器 (S=1/3)

## 報告書抄録

ふりがな	あつまちよう こいぬまさんいせき (2)							
書名	厚真町 鯉沼3遺跡(2)							
副書名	農地造成に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	藤原秀樹・乾 哲也							
編集機関	厚真町教育委員会							
所在地	〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165-1 Tel(0145)-27-2321							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
こいぬまさんいせき 鯉沼3遺跡	北海道 勇払郡 厚真町 字鯉沼 108番地1	01581	J-13-85	42度 38分 11秒	141度 53分 1秒	20050513 ～ 20050526	2,830 ㎡	農地 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
鯉沼3遺跡	集落跡	縄文時代 中期 後期	住居跡2 土壇5 Tピット 23 焼土47	土器 370点 石器 49点ほか 合計 749点	沢状地形にまとまる Tピット群。 縄文時代中期、柏木川式 および後期、余市式 が主体。			

### 厚真町 鯉沼3遺跡(2)

—農地造成に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成18年3月18日

編集・発行 厚真町教育委員会

〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地1

電話 (0145) -27-2321(代)

印刷 清文堂印刷株式会社

住所 勇払郡釧路町美幸町1丁目12番地